SHARP®

取扱説明書
電子レジスタ
形名 ER-A330S

もくじ　ページ

● 安全にお使いいただくために
● はじめてお使いになる前に ············ 9
● 各部のなまえとはたらき ·············· 15
● エラー処理のしかた ·················· 21
● 各種設定のしかた ···················· 23
● 設定内容の点検 ······················ 41
● 各種登録のしかた ···················· 44
● 計算機能の使いかた ·················· 60
● 訂正のしかた ························ 62
● 認証印字機能 ························ 65
● 時刻と日付の表示および出退時刻印字 ···· 68
● 日計売上の点検と精算 ················ 70
● 期間集計の点検と精算 ················ 78
● 停電など異常が発生したときは ········ 81
● 引出しの取扱い ······················ 83
● メンテナンス ························ 84

安全にお使いいただくために

絵表示について

この取扱説明書には、安全にお使いいただくためのいろいろな絵表示をしています。その表示を無視して誤った取り扱いをすることによって生じる内容を、次のように区分しています。
内容をよく理解してから本文をお読みください。

⚠警告	人が死亡または重傷を負う恐れがある内容を示しています。
⚠注意	人がけがをしたり財産に損害を受ける恐れがある内容を示しています。

絵表示の意味

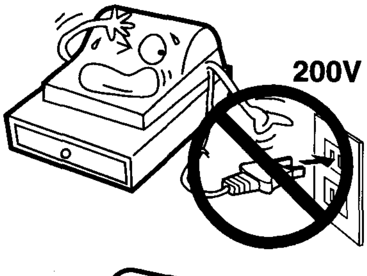
⃠ 記号は、してはいけないことを表しています。

● 記号は、しなければならないことを表しています。

⚠ 警告

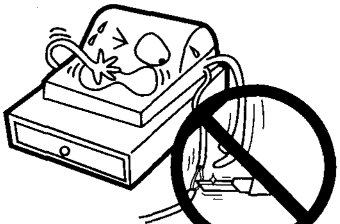
100V以外の電圧で使用しないでください。
またタコ足配線をしないでください。

火災、感電の恐れがあります。



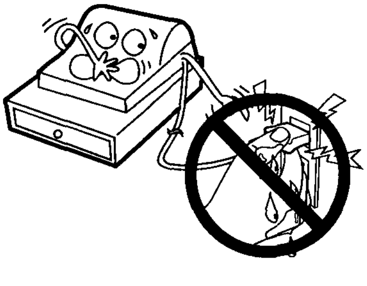
電源コードを傷つけたり、破損したり、加工したりしないでください。

また重いものをのせたり、引っ張ったり、無理に曲げたりすると電源コードをいため、火災、感電の恐れがあります。



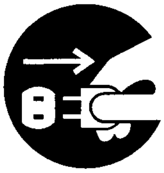
濡れた手で電源プラグを抜き差ししないでください。

感電の恐れがあります。

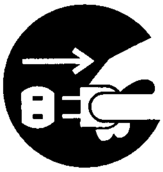


⚠ 警告

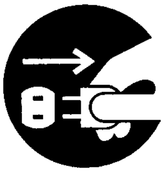
万一、発熱していたり、煙が出ている、へんな臭いがするなどの異常状態のまま使用すると、火災、感電の恐れがあります。
すぐに電源プラグをコンセントから抜いてください。
そして販売会社にご連絡ください。



万一、異物（金属片、水、液体）が機器の内部に入った場合は、本体の電源プラグをコンセントから抜いて販売会社にご連絡ください。
そのまま使用すると火災、感電の恐れがあります。



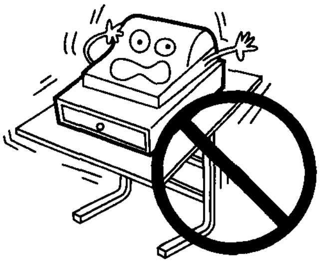
万一、この機器を落としたり、キャビネットを破損した場合は、本体の電源プラグをコンセントから抜いて販売会社にご連絡ください。
そのまま使用すると火災、感電の恐れがあります。



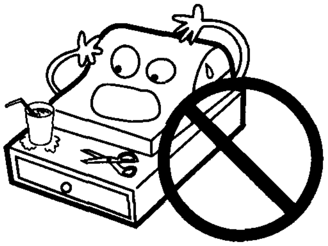
お客様による分解や修理･改造はしないでください。
内部には電圧の高い部分があり、感電の恐れがあります。
また火災の恐れがあります。

⚠ 注意

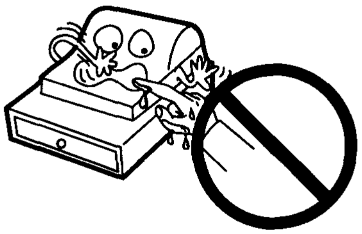
ぐらついた台の上や傾いた所など不安定な場所に置かないでください。
落ちたり、倒れたりして、けがの原因になることがあります。



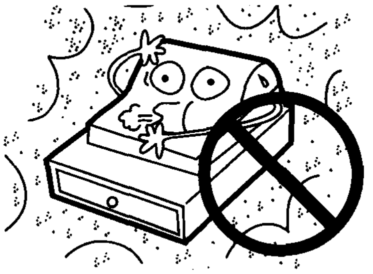
この機器の上に花瓶、植木鉢、コップや水などの入った容器または金属物を置かないでください。
こぼれたり、中に入った場合、火災、感電の原因となることがあります。



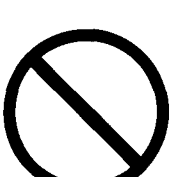
濡れた手でこの機器を使用したり、濡れた物でこの機器をふかないでください。
中に水が入った場合、火災、感電の原因となることがあります。



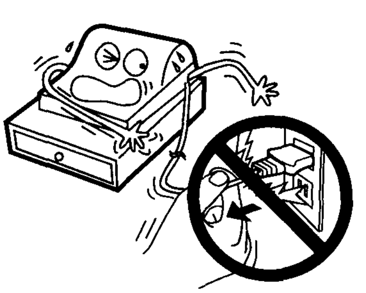
湿気やほこりの多い場所に置かないでください。また、調理台や加湿器のそばなど油煙や湯気があたるような場所に置かないでください。
火災、感電の原因となることがあります。



この機器の上に重い物を置かないでください。
置いたものがバランスがくずれて倒れたり、落下して、けがの原因となることがあります。



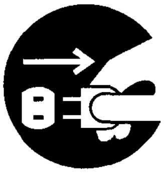
プラグを抜くときは、電源コードを引っ張らないでください（必ずプラグを持って抜いてください）。
コードが傷つき、火災、感電の原因となることがあります。



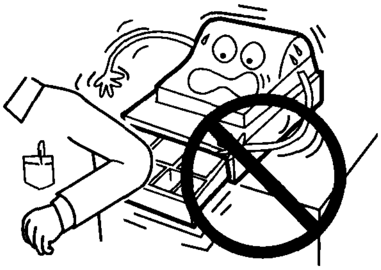
⚠ 注意

この機器を移動させる場合は、必ず電源プラグをコンセントから抜いておこなってください。
コードが傷つき、火災、感電の原因となることがあります。

連休等で長期間、この機器を使用にならない時は安全のため必ず電源プラグをコンセントから抜いてください。



引出し（ドロア）が開いている時に、引出し（ドロア）に寄りかからないでください。
落ちたり倒れたりして、けがの原因となることがあります。

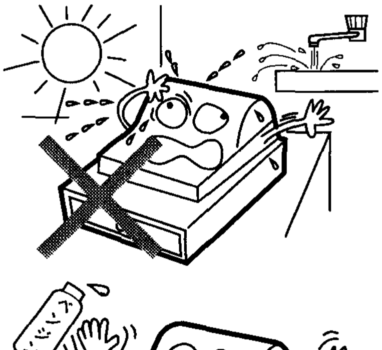


引出し（ドロア）が開く際、子供の顔等に当たらないよう、ご注意ください。
けがの原因となることがあります。

お願い

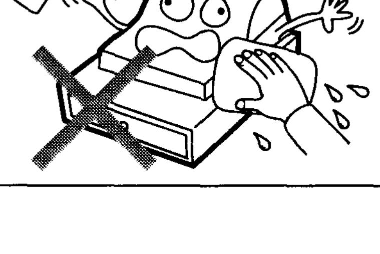
設置上のお願い

この機器を、直射日光があたるところ、湿度が異常に高いところ、水を使うところには設置しないでください。
変色や変形、故障の原因になります。



お手入れの方法

お手入れには乾いた柔らかい布をご使用ください。
揮発性の液体（ベンジン、シンナーなど）は使用しないでください。
キャビネットの変色または変質の原因になります。



はじめに

このたびは、シャープ電子レジスタをお買い上げいただき、まことにありがとうございました。
正しくお使いいただくために、取扱説明書をよくお読みください。
なお、取扱説明書は、保証書とともに必ず保存してください。万一、ご使用中にわからないことや具合の悪いことがおきたとき、きっとお役に立ちます。

●本書の内容の全部または一部を、当社に無断で転載あるいは複製することはお断りします。

●本書の内容および本機は、改良のため予告なく仕様の一部を変更することがあります。

●本書および本機は厳重な品質管理と製品検査を経て出荷しておりますが、万一故障または不具合がありましたら、お買い上げの販売店、またはもよりのシャープお客様ご相談窓口までご連絡ください。

●お客様または第三者がこの製品の使用誤り、使用中に生じた故障、その他の不具合またはこの製品の使用によって受けられた損害については、法令上賠償責任が認められる場合を除き、当社は一切その責任を負いませんので、あらかじめご了承ください。

ご使用の前に
電源プラグがコンセント（AC100V）から長期間抜かれていた場合、メモリ保持用内蔵電池の充電レベルが低下しています。電源プラグをコンセント（AC100V）に接続して24時間以上経過（再充電）した後ご使用をはじめてください。

補充インキは、店名スタンプ専用のものです。インキローラには絶対補充しないでください。故障の原因となります。

本機をご使用になる際は、必ずロール紙をセットしてお使いください。セットせずにご使用になりますと、プリンタ故障の原因となります。

高調波ガイドライン適合品

この装置は、情報処理装置等電波障害自主規制協議会（VCCI）の基準に基づくクラスB情報技術装置です。この装置は、家庭環境で使用することを目的としていますが、この装置がラジオやテレビジョン受信機に近接して使用されると、受信障害を引き起こすことがあります。
取扱説明書に従って正しい取り扱いをしてください。

正しい取り扱いをしても、電波の状況によりラジオ、テレビジョン受信機の受信に影響を及ぼすことがあります。そのようなときは、次の点にご注意ください。

●この製品をラジオ、テレビジョン受信機から十分に離してください。
●この製品とラジオ、テレビジョン受信機を別のコンセントに接続してください。

なお、詳しくはもよりの販売店、またはシャープお客様ご相談窓口までご相談ください。

もくじ

ページ

◆◆◆◆◆◆◆ はじめにお読みください ◆◆◆◆◆◆◆

● 安全にお使いいただくために
● はじめてお使いになる前に …… 9
1. 付属品を確認する …… 9
2. 設置する …… 9
3. 電源を入れる …… 10
4. ロール紙を取り付ける …… 11
5. 日付および時刻の設定 …… 12
(1) 日付の設定 …… 12
(2) 時刻の設定 …… 12
6. 消費税をお店に合わせて設定する …… 14
● 各部のなまえとはたらき …… 15
外観図 …… 15
プリンタ …… 15
機能切りかえスイッチ …… 16
責任者キー（責任者の登録） …… 17
キーボード …… 18
(1) キーレイアウト …… 18
(2) キーのなまえとはたらき …… 18
表示部 …… 20
(1) オペレータ側表示部 …… 20
(2) 客側表示部（ポップアップ式回転表示） …… 20
● エラー処理のしかた …… 21

◆◆◆◆◆◆◆◆ お店に合わせた設定 ◆◆◆◆◆◆◆◆

● 各種設定のしかた …… 23
設定の前に …… 23
消費税に関する設定 …… 24
(1) 税率および免税点の設定 …… 24
(2) 合計額および税額の端数処理の設定 …… 25
(3) 税率更新のタイミングと更新日付の設定（消費税メンテナンス機能） …… 26
部門の設定 …… 27
(1) 単価（プリセット単価）の設定 …… 27
(2) 部門についての諸条件の設定 …… 27

PLU（単価読み出し）の設定 …… **29**
(1) 単価（プリセット単価）、所属部門の設定 …… 29
(2) 単価の登録方法の設定 …… 30
[⊖] キーへの設定 …… **31**
(1) 値引額の設定 …… 31
(2) 値引の機能設定 …… 32
[%1]、[%2] キーへの設定 …… **33**
(1) 割引率、割増率の設定 …… 33
(2) 割引率、割増率の機能設定 …… 33
[信用1]、[信用2]、[掛売]、[現金/預り/両替] キーへの設定 …… **34**
[入金]、[支払] キーへの設定 …… **35**
認証印字の設定 …… **36**
信用売りのつり銭限度額の設定 …… **36**
領収証の設定 …… **37**
(1) 領収証一連番号の設定 …… 37
(2) 収入印紙の貼付最小額の設定 …… 37
選択機能の設定 …… **38**
レジスタ番号の設定 …… **40**
一連番号の設定 …… **40**
● 設定内容の点検 …… **41**
設定点検操作一覧表 …… **41**
設定点検の印字例 …… **41**
(1) 全項目の設定点検（PLUは除く） …… 41
(2) PLUの設定点検 …… 43

◆◆◆◆◆◆◆◆ 日頃の操作 ◆◆◆◆◆◆◆◆

● 各種登録のしかた …… **44**
登録の前に …… **44**
(1) レシートのみかた …… 45
(2) レシート発行/停止の切りかえ …… 45
単品登録 …… **46**
同一商品の複数登録 …… **47**
(1) リピート（くり返し）登録 …… 47
(2) 乗算登録 …… 48
現金単品売り登録 …… **49**
小計のもとめかた …… **49**
現金売り、信用売り、掛売り登録 …… **50**
預り登録 …… **51**
(1) つり銭計算 …… 51
(2) 預り金額不足の登録 …… 51
(3) [万円] キーを使用した現金売りの預り登録 …… 52

値引登録 ･･････ 53
(1) 小計からの値引 ･･････ 53
(2) 部門、PLUの登録金額からの値引 ･･････ 53
パーセント計算（割増・割引登録） ･･････ 54
(1) 小計に対するパーセント計算 ･･････ 54
(2) 部門、PLUの登録金額に対するパーセント計算 ･･････ 55
戻品（返品）の登録 ･･････ 55
非課税シフト ･･････ 56
不加算コードの印字 ･･････ 56
両替 ･･････ 56
入金の登録 ･･････ 57
支払いの登録 ･･････ 57
取引終了後のレシート発行 ･･････ 58
領収証の発行 ･･････ 59

● **計算機能の使いかた（表示のみの操作）** ･･････ 60

● **訂正のしかた** ･･････ 62
登録時の訂正 ･･････ 62
(1) 置数の訂正 ･･････ 62
(2) 登録直後の訂正（直前訂正） ･･････ 62
(3) 数行前の訂正（指定訂正） ･･････ 63
(4) 全項目の一括取り消し（小計訂正） ･･････ 63
レシート発行後（取引終了後）の取り消し ･･････ 64

● **認証印字機能** ･･････ 65
認証印字のしかた ･･････ 65
認証印字例 ･･････ 66
認証伝票用紙の規格 ･･････ 67

● **時刻と日付の表示および出退時刻印字** ･･････ 68
時刻と日付の表示 ･･････ 68
(1) 時刻の表示 ･･････ 68
(2) 日付の表示 ･･････ 68
出退時刻の印字 ･･････ 69

● **日計売上の点検と精算** ･･････ 70
売上高・現金残高の表示（ワンタッチ点検） ･･････ 70
点検/精算表の発行 ･･････ 71
点検・精算表の印字見本 ･･････ 72
(1) 全責任者の点検・精算表 ･･････ 72
(2) 全部門グループの点検表 ･･････ 72
(3) 全PLU/区間PLUの点検・精算表 ･･････ 73
(4) 部門別PLUの点検表 ･･････ 73
(5) 全時間帯別点検・精算表 ･･････ 74
(6) 取引別点検表 ･･････ 75
(7) 全項目の点検・精算表 ･･････ 77

● 期間集計の点検と精算 …… 78
点検・精算表の印字見本 …… 80
(1) 全項目の期間集計点検・精算表のタイトル印字見本 …… 80
(2) 日計別売上点検・精算表 …… 80

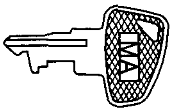
◆◆◆◆◆◆知っておいていただきたいこと◆◆◆◆◆◆

● 停電など異常が発生したときは …… 81
停電のときは …… 81
プリンタが停止（モーターロック）したときは …… 81
プログラムリセット …… 82
● 引出しの取扱い …… 83
引出しの施錠と開錠のしかた …… 83
引出しの開けかた …… 83
金銭収納箱と引出しの外しかた …… 83
● メンテナンス …… 84
ロール紙の入れかた・取り出しかた …… 84
紙づまりのときは …… 87
インキローラの交換のしかた …… 87
スタンプインキの補充のしかた …… 88
消耗品について …… 89
店名スタンプ作成ご依頼要領 …… 89
仕様 …… 90
アフターサービスについて …… 91
(1) 製品の保証について …… 91
(2) 修理を依頼されるときは …… 91
(3) 補修用性能部品について …… 91
故障かな？と思ったら …… 92
● 店名スタンプ作成依頼書

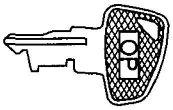
はじめてお使いになる前に

1. 付属品を確認する

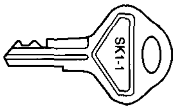
梱包をといて、以下の付属品がすべてそろっているか確認してください。



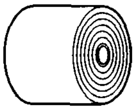
管理者鍵(MA)2個



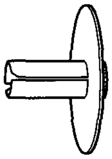
担当者鍵(OP)2個



引出し鍵2個

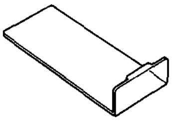


ロール紙2個

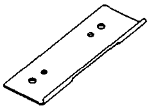


巻取軸1個

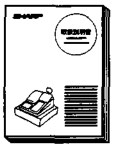
スタンプ補充インキ1個



紙幣仕切板1個
(引出し内に装備)



固定金具1個



取扱説明書(本書)1冊※

※当商品は日本国内向けであり、日本語以外の説明書はございません。
This model is designed exclusively for Japan, with manuals in Japanese only.

保証書1部

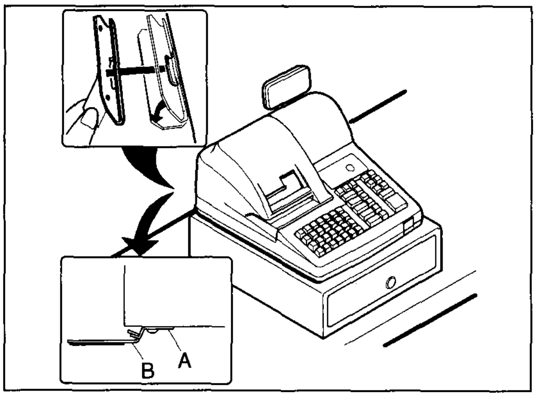
お客様ご相談窓口
一覧表1部

標準スタンプ1個、インキローラ1個は
本体に装着されています。

2. 設置する

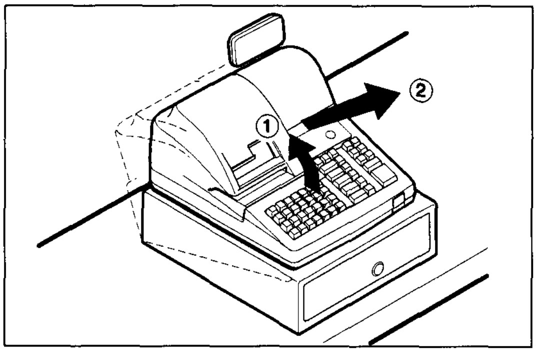
「安全にお使いいただくために」の内容を確認して、レジスタを設置します。
設置する場所を決めたら固定金具を使って、レジスタを固定します。

固定金具の取り付けかた



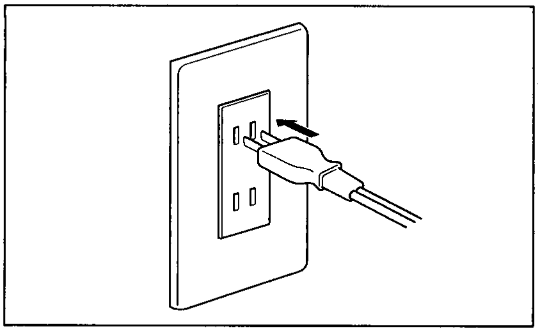
引出しの底面奥についている金具と付属の固定金具を使って、平らな台に固定します。

1) 固定金具を取り付ける台の位置をから拭きし、ほこりや汚れを拭きとります。
2) 固定金具裏面の粘着テープの台紙をはがします。
3) 引出しの底面奥についている金具(A)のフックに、固定金具(B)を引っかけそのまま台の方へ倒し、貼り付けます。

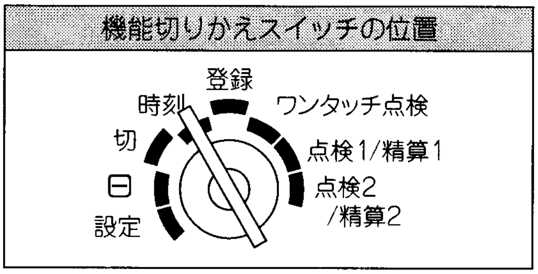


レジスタを固定金具から取り外すときは、図のように前部を持ち上げた状態(図の矢印①)で、斜め上に引いて(図の矢印②)取り外してください。

3. 電源を入れる



1）電源プラグをコンセントに差し込みます。

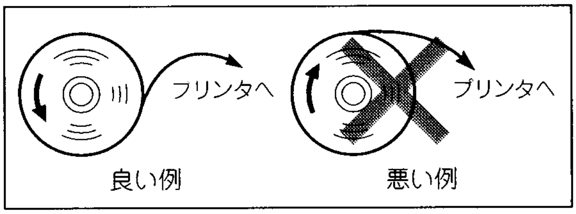


2）機能切りかえスイッチに管理者鍵（MA）を差し込み“時刻”の位置に合わせます。

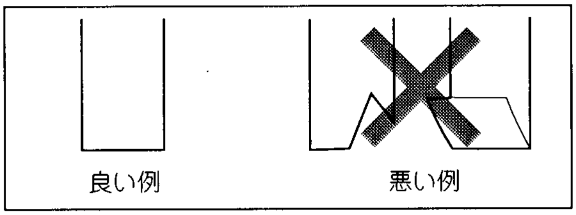
4. ロール紙を取り付ける

レシート側・記録紙側ともに、セット方向と先端の処理に注意して、ロール紙をプリンタに挿入してください。

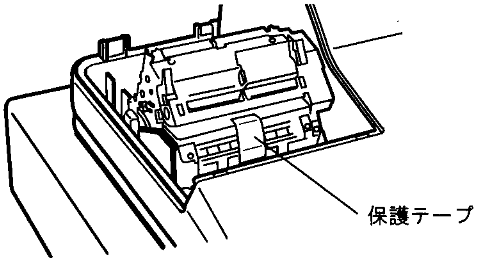
〈セット方向〉



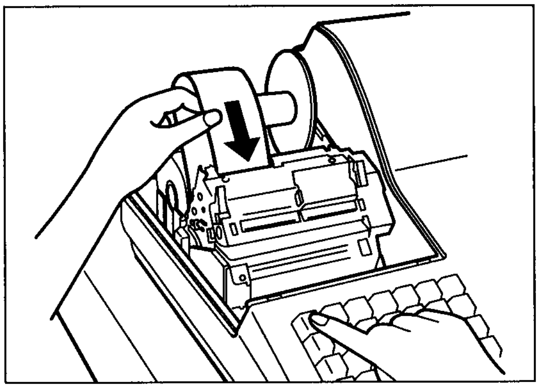
〈先端処理〉



◆注　出荷時は、インキローラをテープで固定してあります。ロール紙を取り付ける前に、必ずこのテープをはがしてください。

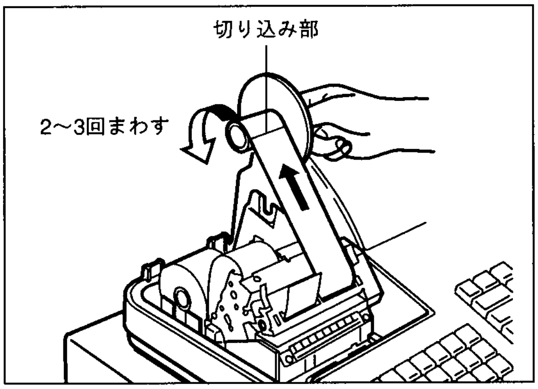


●レシート側



1) プリンタカバーを取り外します。
2) セット方向に注意して、ロール紙をロール紙収納箱の中に落とし込みます。
3) ロール紙の先端をまっすぐ平らに切り、プリンタのロール紙挿入口へ、まっすぐ奥まで差し込みます。
4) [レシート] キーを押して、必要な長さを送り出します。

●記録紙側

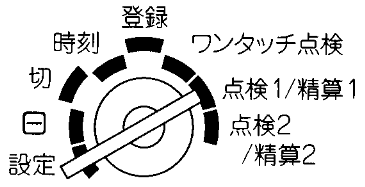


1) レシート側と同じ方法でロール紙をロール紙挿入口へ差し込み、[記録紙] キーを押して、必要な長さを送り出します。
2) 送り出されたロール紙の先端を巻取り軸の切り込み部に差し込み、2～3回巻き付けてから巻取軸を軸受けに取り付けてください。
3) プリンタカバーを取り付けます。

5. 日付および時刻の設定

日付および時刻は、一度設定しておくと自動的に更新され、レシートや点検・精算表に印字されます。

機能切りかえスイッチの位置



機能切りかえスイッチを "設定" の位置に合わせます。

(1) 日付の設定

■設定手順

年・月・日（6桁） → [#/時刻]

日付の年は、西暦の下2桁を入力してください。例えば、2000年12月5日に設定する場合は、001205と置数します。一度設定すると、内蔵しているカレンダーによってうるう年の補正も自動的におこないます(2099年までのカレンダーを内蔵)。
レシートや点検・精算表へは、設定された日付の西暦年が4桁で印字され、表示も4桁になります（出荷時設定）。西暦年の印字と表示の設定は、4桁から2桁に変更できます（38ページ）。

[例] 2001年2月10日に設定する場合

キー操作	印字
010210 [#/時刻]	01-02-10

(2) 時刻の設定

■設定手順

午前0時00分に設定する場合

→ 時・分（最大4桁） → [#/時刻]

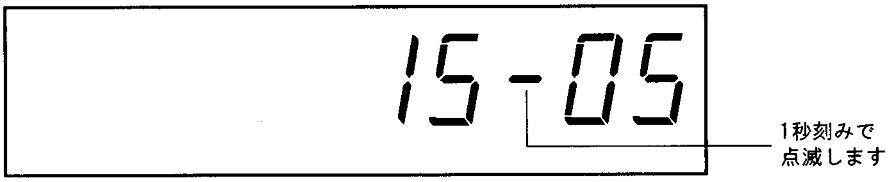
時刻を24時間制で設定してください。午後9時30分に設定する場合、24時間制では21時30分ですから、"2130" と置数します。

[例] 午後3時5分に設定する場合

キー操作	印字
1505 [#/時刻]	15-05

●時刻と日付を確認するときは

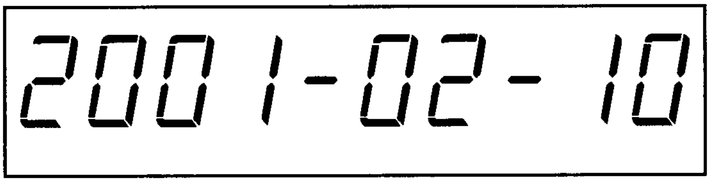
機能切りかえスイッチを“時刻”の位置に合わせると、現在の時刻が表示されます。
“登録”または“[—]”の位置では、[#/時刻]キーを押します。



午後3時5分（24時間制）の場合

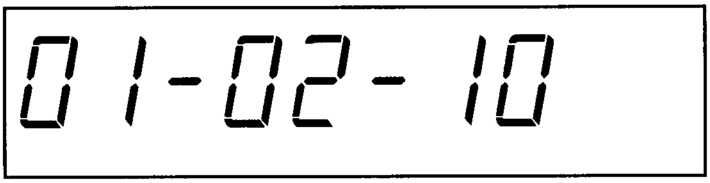
時刻を表示している状態で[#/時刻]キーを押すと、日付が表示されます。

●西暦4桁表示のとき（出荷時）



2001年2月10日の場合

●西暦2桁表示のとき



2001年2月10日の場合

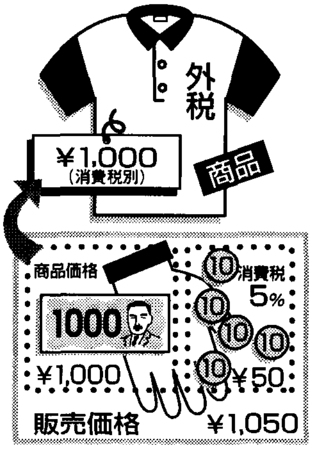
◆注1　[#/時刻]キーを押すごとに、時刻と日付を交互に表示します。
◆注2　西暦年の表示と印字は4桁から2桁に設定を変更することができます。(38ページ)

6. 消費税をお店に合わせて設定する

最後に、消費税をお店に合わせて設定します。
消費税の計算には、次の3つの方法があります。

外税

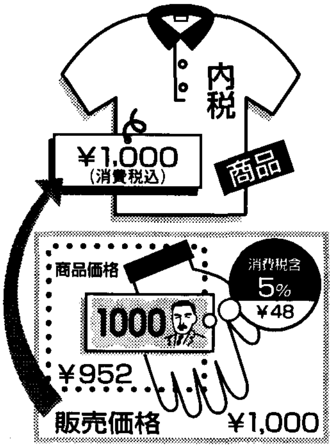
販売価格は、商品価格に消費税5％を付けた価格です。



商品価格＝ 1,000円
消費税 ＝ 50円
販売価格＝ 1,050円

内税

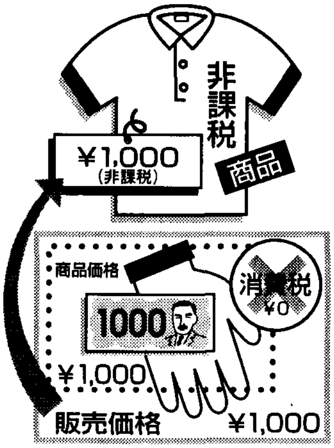
販売価格には、商品価格と消費税5％が含まれています。



商品価格＝ 952円
消費税 ＝ 48円
販売価格＝ 1,000円

非課税

販売価格に、消費税を入れないで販売します。



商品価格＝ 1,000円
消費税 ＝ 0円
販売価格＝ 1,000円

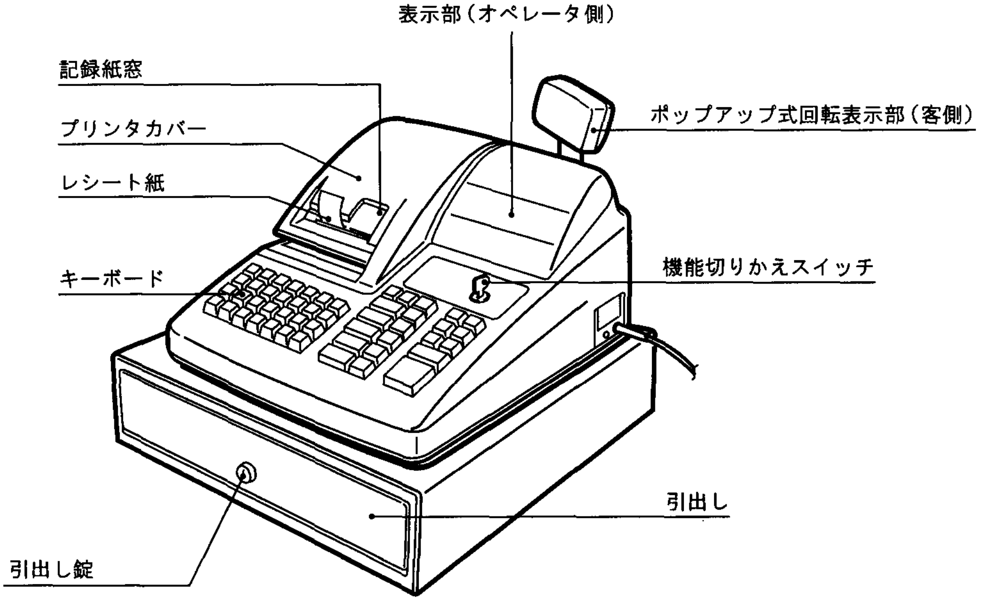
ご購入時、消費税は次のように設定されています。

消費税率	税の種類	税の対象
5%	消費税1	外税対象

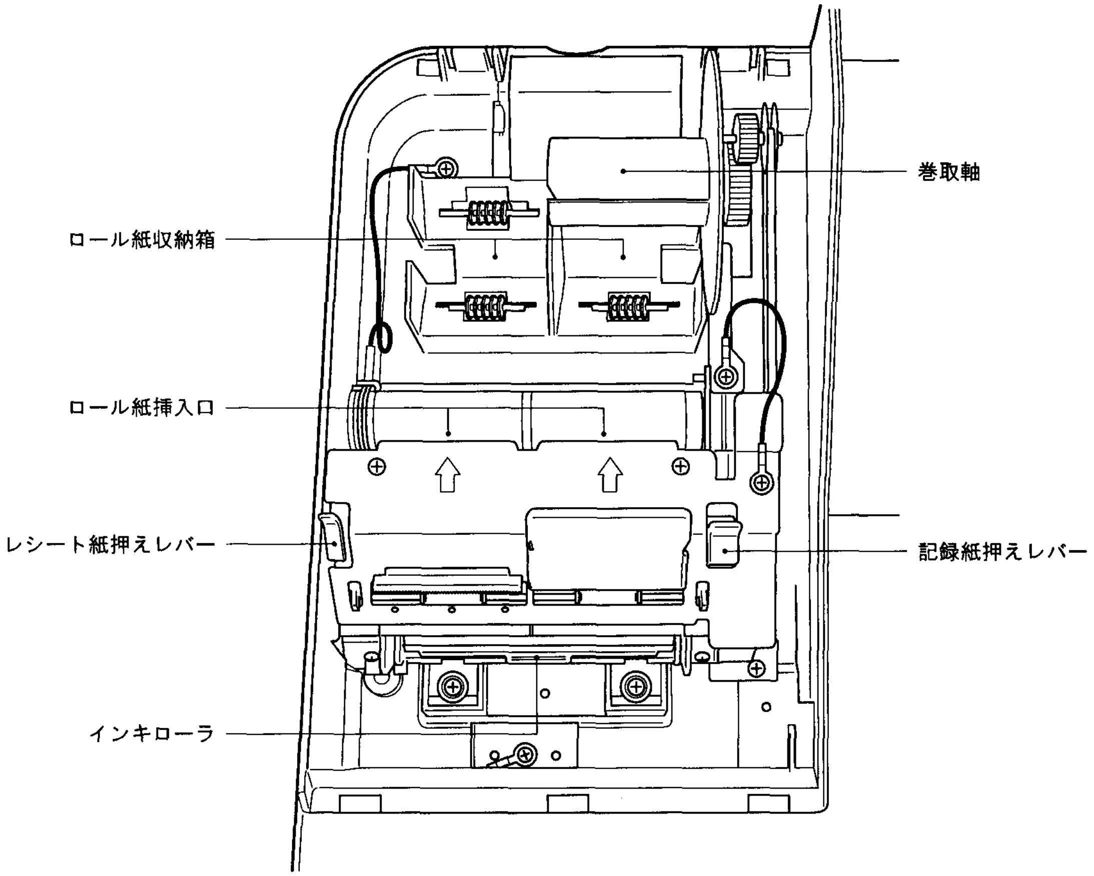
- ●外税商品のみを扱うお店 ——→ このまま使えます
- ●内税商品を扱うお店 ／ ●非課税商品を扱うお店 ——→ 設定を変更してください（28ページ）
- ●消費税が複数になったとき ——→ 設定を変更してください（24、25、28ページ）
- ●消費税率を変更するとき ——→ 設定を変更してください（24、26ページ）

各部のなまえとはたらき

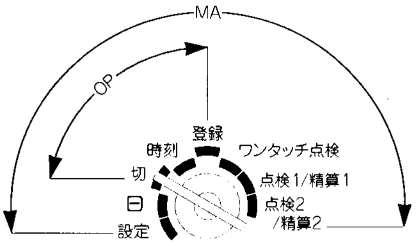
外観図



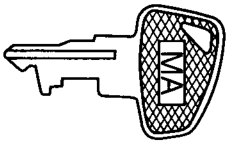
プリンタ



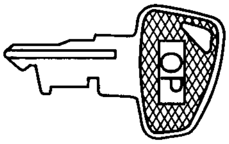
機能切りかえスイッチ



●管理者鍵（MA）



●担当者鍵（OP）



●機能切りかえスイッチは、付属の管理者鍵(MA)、または担当者鍵(OP)を使って切りかえます。担当者鍵(OP)では、切／時刻／登録の切りかえのみができます。
●鍵の抜き差しは、“切”または“登録”の位置でおこないます。

機能のなまえとはたらき

切：	表示が消え、すべての操作を禁止します
時刻：	時刻と日付の表示をおこないます。（68ページ） 出退勤時刻の印字をおこないます。（69ページ）
登録：	各種登録をおこないます。(44ページ)
ワンタッチ点検：	売上げ高の表示をおこないます。（70ページ）
点検 1/精算 1：	一日の売上げ高の点検または精算をおこないます。(71ページ)
点検 2/精算 2：	任意期間の売上げ高の点検または精算をおこないます。(78ページ)
⊟(レジマイナス)：	レシート発行後(取引終了後)の取り消しをおこないます。(64ページ)
設定：	登録に必要な各種設定および、設定内容の点検をおこないます。(23ページ)

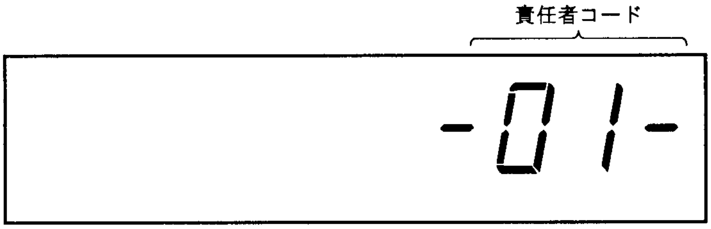
責任者キー(責任者の登録)

本機では、操作を担当する人を責任者とし、4人の責任者を責任者コードで区分します。
この責任者を登録する際に、[責任者](責任者)キーを使って責任者コードを登録します。

●責任者の登録のしかた
機能切りかえスイッチの位置:時刻·登録·⊟

責任者コード(1〜4)	→ [責任者]

責任者が登録されると、責任者コードが次のように表示されます(責任者コード1の場合)。



キーボード

(1) キーレイアウト

↑レシート	↑記録紙	責任者	(C) CL	7	8	9
後レシート	認証	万円	⊗	4	5	6
%1	⊖	#/時刻	(RM) 入金	1	2	3
%2	訂正	戻品	(CAL) 支払	0	00	•

PLU	金額	非課税
	5	10
(÷)	4	9
(×)	3	8
(−)	2	7
(+)	1	6

レシート発行/停止	解除
領収証	掛売
信用1	信用2
小計	
(=) 現金/預り/両替	

◆注　キーの左下にある (+)(−)(×)(÷)(=)(CAL)(RM)(C) のキーは、計算機能で使用します。くわしくは、「計算機能の使いかた」を参照ください。

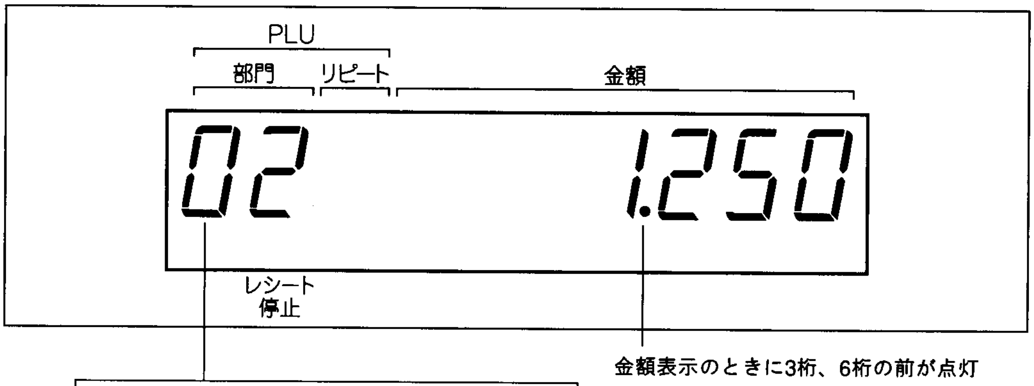
(2) キーのなまえとはたらき

キー	キーのなまえ	キーのはたらき
↑レシート	レシート紙送りキー	レシート紙の紙送りに使用します。
↑記録紙	記録紙送りキー	記録紙の紙送りに使用します。
レシート発行/停止	レシート発行/停止 切りかえキー	レシート発行と停止の切りかえに使用します。(45ページ)
1 ～ 9 0 00	置数キー	数値を置数するときに使用します。(00 キーを押すと"0"が一度に2桁置数されます。)
⊗	乗算キー	乗算登録に使用します。 (48ページ)
•	小数点キー	数量または割引率に小数点を含むときに使用します。
CL	クリアキー	置数を押し間違えたときの消去や、エラー状態の解除に使用します。
責任者	責任者キー	責任者コードの入力に使用します。 (17ページ)
1 ～ 10	部門キー	商品を部門区分するときに使用します。現金単品売りをするときに使用します。(単品売り設定部門のみ)
PLU	PLUキー	PLU番号による登録(プライス・ルック・アップ)に使用します。
金額	金額キー	PLUのオープン登録(金額を置数して登録する場合)に使用します。 (46ページ)

キー	キーのなまえ	キーのはたらき
⊖	値引キー	個々の売上商品や小計金額に対して、値引登録をおこなうときに使用します。（53ページ）
%1 %2	パーセントキー	個々の売上商品や小計金額に対して、割増または割引登録をおこなうときに使用します。（54ページ）
非課税	消費税非課税キー	消費税課税商品を非課税として登録するときに使用します。（56ページ）
小計	小計キー	小計金額（税込み）の算出に使用します。（49ページ）
万円	万札キー	1万円札を預ったときに使用します。（現金の預り登録、入金、支払いの登録に有効です。）（52ページ）
信用1 信用2	信用売りキー	小切手、クレジットカードなどの信用売りに使用します。（50ページ）
掛売	掛売りキー	掛売りに使用します。（50ページ）
現金/預り/両替	現金売り/預り/両替キー	現金売り、預り登録（つり銭計算）、両替をおこなうときに使用します。点検、精算をおこなうときに使用します。
#/時刻	不加算登録/時刻・日付表示キー	不加算コード番号の印字をおこなうときに使用します。（56ページ） 時刻・日付を表示するときに使用します。（68ページ）
入金	入金キー	掛売りの入金やつり銭用の準備金など、入金登録のときに使用します。（57ページ）
支払	支払いキー	支払い登録のときに使用します。（57ページ）
戻品	戻品（返品）キー	戻品（返品）登録に使用します。（55ページ）
訂正	訂正キー	直前訂正、指定訂正、全項目の取り消しをおこなうときに使用します。（62ページ）
後レシート	事後レシート発行キー	レシート発行/停止切りかえキーが"停止"（レシート発行を停止）状態で取引終了後にレシートを発行させたいときに使用します。（58ページ）
認証	認証印字キー	認証印字をおこなうときに使用します。（65ページ）
領収証	領収証/控え発行キー	領収証、領収証の控えを発行するときに使用します。（59ページ）
解除	解除キー	クリアキーを押してもエラー状態が解除できないときに使用します。（22ページ）

表示部

(1) オペレータ側表示部



表示	説明	表示	説明
F	[現金/預り/両替]、[信用1]、[信用2]、[掛売]キーを押して、取引を終了したときに点灯します。	n	領収証控えの発行が強制されているときに点灯します。
o	小計または預り不足金額が表示されるときに点灯します。	U	認証印字が強制されているときに点灯します。
C	つり銭額が表示されるときに点灯します。	E	エラーのときに点灯します。
c	計算モードを指定したときに点灯します。	P	設定のときに点灯します。

金額表示 …………………… 金額を右から最大7桁表示します。

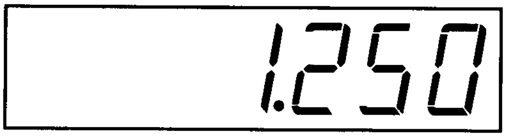
リピート登録回数表示 ………… リピート登録のリピート回数表示は“2”からです。10回目は“0”を表示し、それ以上は2桁目を省略します。
(2→3→4→·····8→9→0→1→·····)

マイナス表示 ………………… 割引、値引などマイナス登録のときは金額の左に“−”を表示します。

不加算コード ………………… 最大8桁を表示します。

⊟(レジマイナス)表示 ………… 機能切りかえスイッチを“⊟”(レジマイナス)の位置にすると左のように表示します。

(2) 客側表示部(ポップアップ式回転表示)



エラー処理のしかた

エラーが発生すると、長い警告音(約2秒間)が鳴り、表示部にエラーコードを表示します。このとき[CL]キーでエラー状態を解除し、下記のエラーコード表の処理方法にしたがってください。
また、誤ったキー操作をしたときは、短い警告音が鳴ります。このときキー入力は受け付けていませんので、引き続き正しいキー操作をおこなってください。

エラーコード表

エラーコード	エラー内容	処理方法
E01	登録が誤っているか、禁止されている登録です。	正しい登録をしなおしてください。
E02	誤ったキー操作がおこなわれました。	正しいキー操作をしなおしてください。
E03	存在しない番号です。	正しいコード番号を置数してください。
E04	小計キー操作が強制されています。	小計キーを押した後、操作を続けてください。
E05	預り操作が強制されています。	預り金額を登録してください。
E08	認証印字が強制されています。	認証伝票用紙をセットし、認証印字をしてください。
E12	設定された制限をオーバーしています。	設定された制限内で登録してください。くわしい内容については、次ページの「オーバーフローエラーについて」を参照してください。
E13	単価の登録方法が"プリセットのみ"になっています。	プリセット登録をおこなってください。
E14	単価の登録方法が"オープンのみ"になっています。	オープン登録をおこなってください。
E15	預り不足後の丁度締め操作はおこなえません。	金額の預り操作をしてください。
E90	領収証控えの発行が強制されています。	領収証キーを押して領収証控えを発行してください。

エラー処理のしかた

●オーバーフローエラーについて
レジスタの登録範囲を超えたときには、オーバーフローエラーとなり、以後の登録ができなくなります。エラー状態を解除し、次の処理方法にしたがってください。

置数入力が13桁を超えたとき
エラー解除後、正しい置数をしなおしてください。

1取引内の外税抜きの商品合計額が7桁を超えたとき
エラー解除後、[現金/預り/両替] [信用1] [信用2] [掛売]キーなどの取引キーを押していったん取引を終了してください。エラー前の金額で締め操作がおこなわれます。

外税込みの合計、預り、入金、支払い金額が8桁を超えたとき
エラー解除後、分割して登録しなおしてください。ただし、制限桁数を設定しているときは、その桁数以下でしか登録できません。

乗算登録時、数量と単価の積が7桁を超えたとき
エラー解除後、分割して登録しなおしてください。

その他、個々に設定された制限値を超えたとき
エラー解除後、個々の制限内で登録をしなおしてください。
制限を超える登録が必要なときは、機能切りかえスイッチを"[−]"（レジマイナス）または"ワンタッチ点検"の位置にして登録してください。登録後は機能切りかえスイッチを"登録"の位置に戻してください。

●[CL]キーを押してもエラー状態が解除できないときは
[CL]キーを押してもエラー状態が解除できないとき、エラーで操作ができないとき、どうしてよいかわからなくなったときは、次のように操作してください。
（この操作によってエラー状態を解除したときは、「ー★ー★ー★ー★ー」が記録紙に印字されます。）

→[解除]→[解除]　：「小計訂正」として処理されます。

◆注　預り途中でこの操作をした場合には、「現金丁度締め」として処理されます。

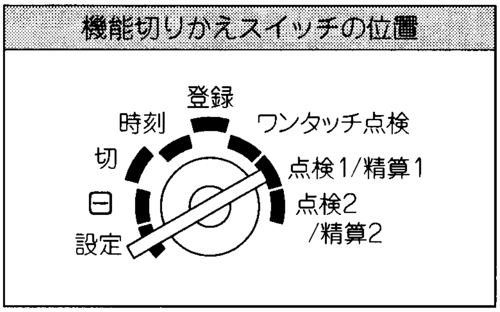
→[解除]→[現金/預り/両替]　：「現金丁度締め」として処理されます。

◆注　不加算コードの入力後にこの操作をした場合には、「両替」として処理されます。

各種設定のしかた

設定の前に

機能切りかえスイッチを“設定”に合わせてください。



責任者を変更するときは

“設定”に切りかえる前に責任者の登録をおこなってください。責任者の登録のしかたについてくわしくは「責任者キー(責任者の登録)」を参照してください。

機能切りかえスイッチの位置：時刻·登録·⊟

責任者コード (1～4)	→ 責任者

●初期値について

本書では、出荷時の初期値に░をつけて説明しています。

このままの機能で使用する場合は、設定し直す必要はありません。

消費税に関する設定

本機は、2種類の消費税(消費税1および消費税2)を自動的に計算登録する機能を備えています。この機能を使用する場合は、それぞれの消費税に対して必要な設定をおこなってください。また、本機は、改正される税率や免税点をその変更日(実施日)とともにあらかじめ設定しておき、設定された変更日に自動的に設定内容を更新する機能(**消費税メンテナンス機能**)を備えています。

ー消費税が改正されるときはー

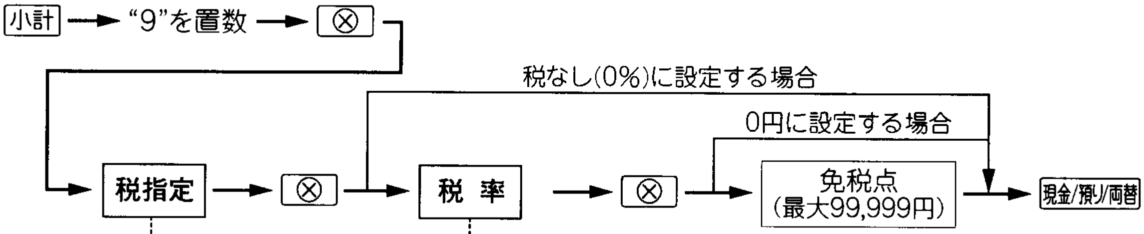
あらかじめ新税率と新税率実施日を設定しておくことで自動的に税率の更新処理をおこないます。消費税率改正の際は、次の手順で、消費税メンテナンス機能の設定をおこなってください。

手順1 「(3) 税率更新のタイミングと更新日付の設定」(☞ 26ページ)で、**更新日付**と**更新タイミング**を設定します。

手順2 「(1) 税率および免税点の設定」(☞ 本ページ)で、**新税率**を設定します。
消費税1の税率を更新するには、メンテナンス消費税1(税指定：3)に新消費税率を設定します。

(1) 税率および免税点の設定

■設定手順



税指定	
消費税1	1
消費税2	2
メンテナンス消費税1	3
メンテナンス消費税2	4

0.0000～99.9999 (%)
小数点を省略し、小数4桁まで置数してください。
(例：5%に設定する場合は、50000と置数します。)

税率の初期値
消費税1 ＝5.0000
消費税2 ＝0.0000
メンテナンス消費税1＝0.0000
メンテナンス消費税2＝0.0000

◆注　改正用の税率および免税点を設定するときは、すべての税(メンテナンス消費税1、メンテナンス消費税2)に対して設定してください。
(変更を必要としない税でも改正用税率および免税点は設定してください。)
消費税メンテナンス機能による更新時は、すべての税率(消費税1、2とその免税点)が設定更新されます。

［例］メンテナンス消費税1(税指定：3)の税率を7%、免税点を0円に設定する場合

キー操作	印 字
小計	
9 ⊗	7•0000 税1
3 ⊗ 70000 ⊗	0#
現金/預り/両替	

(2) 合計額および税額の端数処理の設定

合計額の100円未満と、税額の1円未満について端数処理の方法を選択できます。

■設定手順

設定値がすべて0の場合

[小計] → "8"を置数 → [⊗] → A B C D E F G → [小計] → [現金/預り/両替]

初期値＝0000002

A	B	C	D	E	F	G
(未使用)	合計額の端数処理				内税端数処理	外税端数処理
常に：0	nn 捨 (下表参照)		mm 入 (下表参照)		切り捨て：2 切り上げ：1 四捨五入：0	切り捨て：2 切り上げ：1 四捨五入：0

nn捨mm入 nn	nn捨mm入 mm	処理内容	処理例とその入力例	入力例 BCDE
00	00	端数処理しない		置数しません
09	09	9円以下切り捨て	:1～9円→0円	909
99	99	99円以下切り捨て	:1～99円→0円	9999
00	01	1円～9円を10円に切り上げ	:1～9円→10円	1
10	01	1円～99円を100円に切り上げ	:1～99円→100円	1001
09	10	9捨10入	9捨10入:1～9円→0円、10～99円→100円	910
0n	0m	n捨m入(n:1～4、m:5～9)	2捨 8入:1～2円→0円、3～7円→5円、8～9円→10円	208
0n	0m	n捨m入(n+1＝m)	4捨 5入:1～4円→0円、5～9円→10円	405
nn	mm	nn捨mm入(n:1～49、m:50～99)	20捨80入:1～20円→0円、21～79円→50円、80～99円→100円	2080
nn	mm	nn捨mm入(nn+1＝mm)	49捨50入:1～49円→0円、50～99円→100円	4950
0n	00	n捨0入(n:1～4)	4捨 0入:1～4円→0円、5～9円→5円	400
nn	00	nn捨00入(nn:1～49)	49捨00入:1～49円→0円、50～99円→50円	4900

[例] 合計額を四捨五入、内税を四捨五入、外税を切り捨てに設定する場合

キー操作	印字
[小計] 8 [⊗] 40502 [小計] [現金/預り/両替]	8 0040502

(3) 税率更新のタイミングと更新日付の設定（消費税メンテナンス機能）

消費税1および消費税2の税率と免税点は、その変更日(新税率実施日)以前に設定しておくことができます。(メンテナンス消費税1、メンテナンス消費税2にそれぞれ設定しておきます。)
改正用の税率は、設定された更新の日付および更新のタイミングにしたがって自動的に更新されます。
更新は消費税1、消費税2とも同時におこなわれます。
税率を更新するタイミングには、次の2種類があります。
①設定された変更日(または変更日後)に、全項目日計精算をおこなったとき
②設定された変更日(または変更日後)に、任意のキー(置数キーなど)を押したとき

◆注　②を選択した場合、変更日の前日中に登録した取引および登録中に変更日になった取引は、更新前の税率が適用されます。

■設定手順

設定値がすべて0の場合

[小計] → "7"を置数 → [⊗] → | A | B | C | D | E | F | G | → [小計] → [現金/預り/両替]

初期値＝0000000

A	B	C	D	E	F	G
税率更新のタイミング	税率更新の日付					
設定変更日の全項目日計精算後：1 設定変更日に自動更新　：0	年 00～99		月 00～12		日 00～31	

[例] 更新のタイミングを設定変更日に自動更新、更新日付を2002年4月1日に設定する場合

キー操作	印字
[小計] 7 [⊗] 20401 [小計] [現金/預り/両替]	7　0020401#

◆注　税率の更新処理がおこなわれると、設定されていた改正用の税率および更新日付は自動的にクリアされます。また、税率更新の確認用レシートが発行されます。

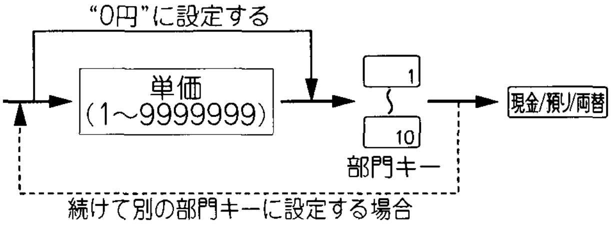
```
 7•0000 税1
      0#
10•0000 税2
      0#
```

部門の設定

(1) 単価（プリセット単価）の設定

部門に単価の設定をおこなうと、部門キーを押すだけで、あらかじめ設定しておいた単価と部門を登録することができます。

■設定手順



単価は最大7桁(1円～9,999,999円)まで設定できます。

◆注1　単価を"0円"に設定したときは、プリセット登録ができません。

◆注2　次項の「(2)部門についての諸条件の設定」で単価の登録方法を"オープンのみ"または"禁止"に設定している部門(プリセット登録を認めていない部門)でも、単価を設定すると、自動的にプリセット単価による登録ができるようになります。

[例] 部門1に600円を、部門10に1,200円を設定する場合

キー操作

600 [1]
1200 [10]
[現金/預り/両替]

印字

```
01        03外  1
   0      17
         600    ← 単価
10        03外  1
   0      17
        1200    ← 単価
```

(2) 部門についての諸条件の設定

●所属グループ

いずれかのグループに所属させることにより、グループ別の点検表をとることができます。

●符号のプラス/マイナス

通常の売上を登録するプラス部門、または支払い金額を登録するマイナス部門を設定します。

●消費税に対する属性

消費税1/2、外税/内税/非課税を設定します。消費税2は、消費税が複数になったときに設定します。

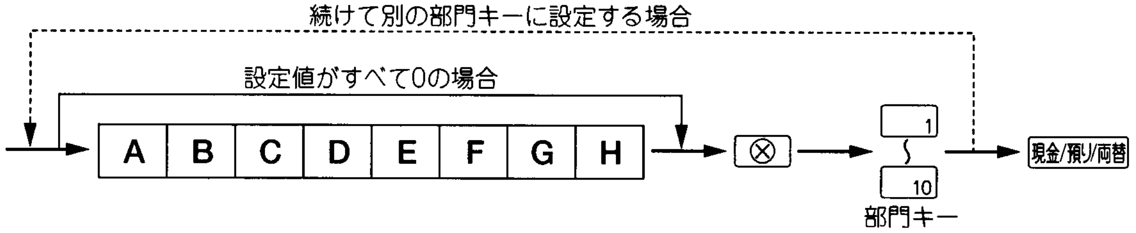
●現金単品売り

単品で現金売りするときに用いると便利な機能です。現金単品売り指定の部門へ登録をおこなうと、自動的に現金売りとして取引を終了します。ただし、通常の部門登録後、現金単品売りの部門を登録しても、取引は終了せず登録を続けることができます。

●単価の登録方法
それぞれの部門について単価の登録方法を設定します。単価の登録方法には、置数によって単価を入力するオープン登録と、あらかじめ設定されている単価(プリセット単価)を使用するプリセット登録があります。

●登録単価の制限桁数
登録金額の誤りを防ぐために、登録単価の制限を設定できます。

■設定手順



初期値＝00010117

A	B	C	D	E	F	G	H
グループ番号	符　号	消費税 1/2	課税対象	現金単品売り	単価の登録方法	*制限桁数	
0〜9 (0＝グループ分けしない)	マイナス：1 プラス：0	消費税2：1 消費税1：0	内　税：2 外　税：1 非課税：0	す　る：1 しない：0	オープン登録とプリセット登録　：3 プリセット登録のみ：2 オープン登録のみ：1 登 録 禁 止　：0	制限金額＝G×10^H G：1〜9 H：0〜7	

＊制限桁数用の置数データ(GH)は、登録の際に制限金額をもとめる基礎となる数値です。
制限金額は($G\times10^{H}$)として計算されます。
(参考) 制限を10,000円以下と設定する場合、$10000=1\times10^{4}$なので“GH”に“14”を置数します。

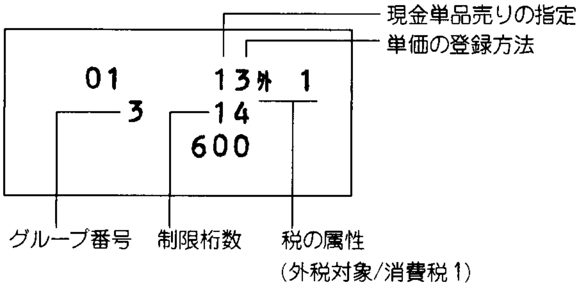
◆注　GとHにそれぞれ(G＝1、H＝7)を設定したときは、“制限桁数なし”となり、最大7桁まで登録できます。

[例] 部門1を“グループ3”・“プラス符号(プラス部門)”・“消費税1”・“外税課税”・“現金単品売り”・“オープンおよびプリセット登録”・“登録単価の制限10,000円(1×10^{4})”に設定する場合

キー操作

30011314 [⊗] [1]
[現金/預り/両替]

印　字



PLU（単価読み出し）の設定

PLUは、部門より数も多く、さらに細分類された個々の商品管理をおこなうことができます。
あらかじめ単価や所属部門を設定しておき、コード番号(PLU番号)を指定することで、設定内容が自動的に読み出され登録処理されます。
PLU番号は3桁のフリーコード方式です。001～999の範囲で、棚別、品種別、メーカー別など自由に番号設定できます。
本機は、200品目のPLUを備えています。

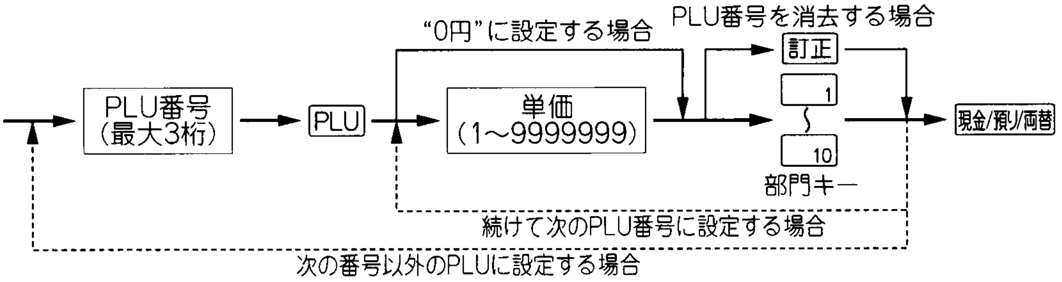
(1) 単価（プリセット単価）、所属部門の設定

この設定をおこなうことで、PLU番号が定義されます。また、不要になったPLU番号を消去できます。
PLUに単価設定をおこなうと、PLU番号を置数し、[PLU]キーを押すだけで、あらかじめ設定しておいた単価を登録することができます。

●所属部門

商品にPLU番号を割り当て、それぞれのPLUが所属する部門を設定します。
所属グループ、符号の＋/－、税の属性、現金単品売りの指定、登録単価の制限桁数は所属する部門の設定内容にしたがいます。

■設定手順



部門キーは、所属させる部門を押してください。
単価は最大7桁まで設定できます。単価を"0円"に設定すると、サービス品(無料奉仕品)などの登録に使用できます。

◆注　次項の「(2)単価の登録方法の設定」で単価の登録方法を"オープンのみ"または"禁止"に設定しているPLU(プリセット登録を認めていないPLU)でも単価を設定すると、自動的にプリセット単価による登録ができるようになります。

［例］PLU番号1を単価1,200円・所属部門1、PLU番号10を単価500円・所属部門2として設定する場合

キー操作

1 [PLU] 1200 [1]
10 [PLU] 500 [2]
[現金/預り/両替]

印字

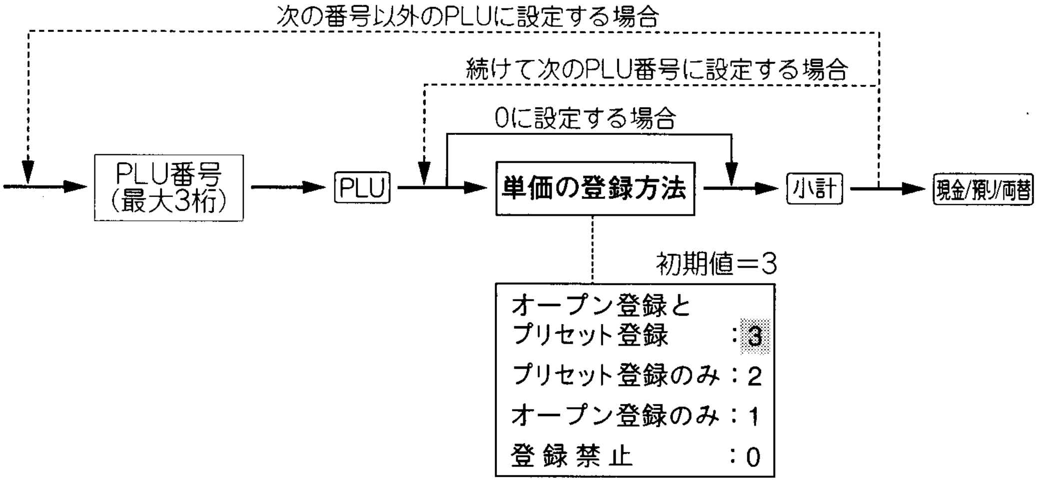
```
PL001  01  3
         1200
PL010  02  3
          500
```

所属部門
単価
PLU番号

(2) 単価の登録方法の設定

それぞれのPLUについて、単価の登録方法を設定します。
単価の登録方法には、置数によって単価を入力するオープン登録と、あらかじめ設定されている単価(プリセット単価)を使用するプリセット登録があります。

■設定手順



［例］PLU番号5をプリセット登録のみとし、PLU番号6をオープンおよびプリセット登録として設定する場合

キー操作

5 [PLU] 2 [小計]
3 [小計]
[現金/預り/両替]

印字

```
PL005  01  2
           0
PL006  01  3
           0
```

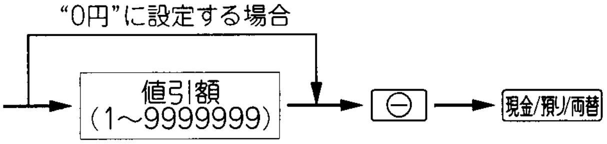
単価の登録方法

[⊖]キーへの設定

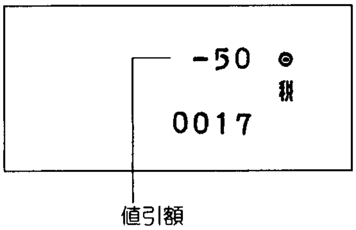
(1) 値引額の設定

値引キーに値引額を設定しておくことができます。

■設定手順



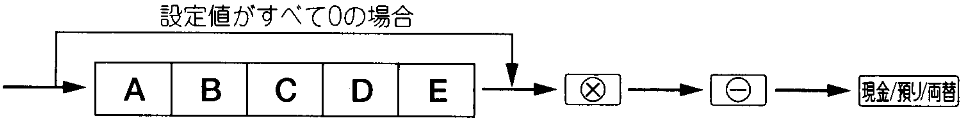
[例] [⊖]に値引額50円を設定する場合

キー操作	印字
50[⊖] [現金/預り/両替]	

(2) 値引の機能設定

値引キーに課税/非課税、計算対象(単品/小計)、値引限度額の制限桁数を設定します。

■設定手順



初期値＝10017

A	B	C	D	E
課税/非課税	単品から値引	小計から値引	*制限桁数	
課　税：1 非課税：0	しない：1 す　る：0	しない：1 す　る：0	制限金額＝D×10^E D：1〜9 E：0〜7	

＊制限桁数用の置数データ（DE）は、登録の際に制限金額をもとめる基礎となる数値です。
制限金額は（D×10^E）として計算されます。
（参考）制限を10,000円以下と設定する場合、10000＝1×10^4なので“DE”に“14”を置数します。

◆注1　DとEにそれぞれ（D＝1、E＝7）を設定したときは、“制限桁数なし”となり、最大7桁まで登録できます。

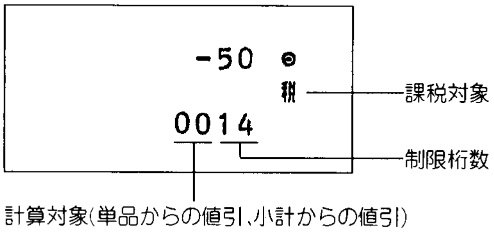
◆注2　計算対象を単品/小計とも“しない”に設定すると、値引登録が禁止されます。

[例]　⊖を課税、単品および小計に対して計算、値引限度額10,000円(1×10^4)に設定する場合

キー操作

10014 ⊗ ⊖
現金/預り/両替

印字

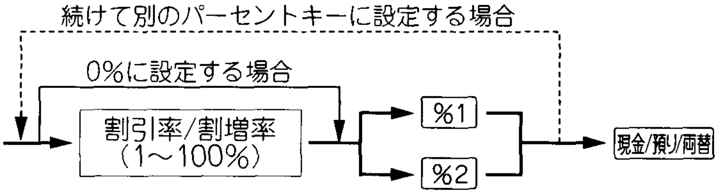


%1 、%2 キーへの設定

(1) 割引率、割増率の設定

パーセントキーに割引率または割増率を設定しておくことができます。

■設定手順



◆注　「選択機能の設定(項目番号＝11)」で小数入力を“可能”に設定している場合は、小数点を省略し、小数2桁まで置数してください(設定範囲：0.01～100.00%)。

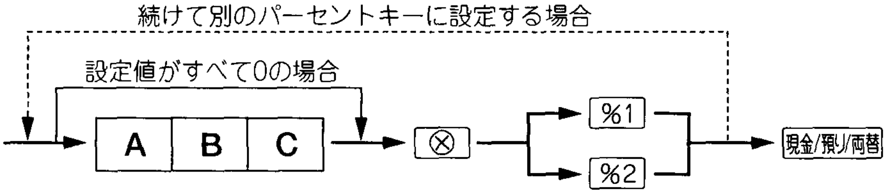
[例] %2 に割引率5%を設定する場合

キー操作	印字
5 %2 現金/預り/両替	-5　%2 00

(2) 割引率、割増率の機能設定

パーセントキーにプラス(＋)・マイナス(－)、計算対象(単品/小計)を設定します。

■設定手順



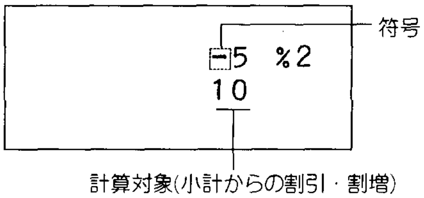
初期値＝100

A	B	C
符　号	単品から割引・割増	小計から割引・割増
マイナス：1 プラス：0	しない：1 す　る：0	しない：1 す　る：0

◆注　計算対象を単品/小計とも“しない”に設定すると、割引/割増の登録が禁止されます。

[例] %2 にマイナス符号、小計に対してのみ計算すると設定する場合

キー操作	印字
110 ⊗ %2 現金/預り/両替	(下図)

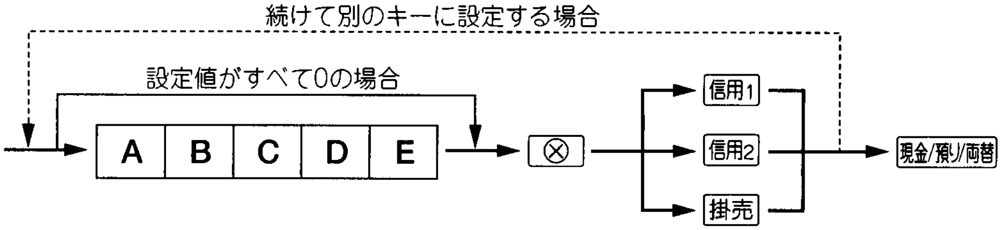


[信用1]、[信用2]、[掛売]、[現金/預り/両替] キーへの設定

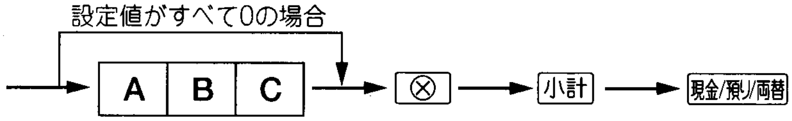
各締めキーについて、つり銭支払いの禁止、引出しの開閉、預り金額の入力強制および取引限度額の制限桁数を設定しておくことができます。

■設定手順

● [信用1]、[信用2]、[掛売] キーに設定する場合



● [現金/預り/両替] キーに設定する場合



初期値（[信用1][信用2][掛売]）=00018
初期値（[現金/預り/両替]）=000

A	B	C	D	E
つり銭の支払い	引出し	預り金額の入力	*制限桁数	
禁　止　：1 可　能　：0 （[掛売]キーは設定無効：0）	開かない：1 開　　く：0	強　制　：1 非強制　：0 （[掛売]キーは設定無効：0）	制限金額＝D×10^E D：1〜9 E：0〜8	

＊制限桁数用の置数データ（DE）は、登録の際に制限金額をもとめる基礎となる数値です。
制限金額は（D × 10^E）として計算されます。
（参考）制限を10,000円以下と設定する場合、10000＝1 × 10^4なので“DE”に“14”を置数します。

◆注　DとEにそれぞれ（D＝1、E＝8）を設定したときは、“制限桁数なし”となり、最大8桁まで登録できます。

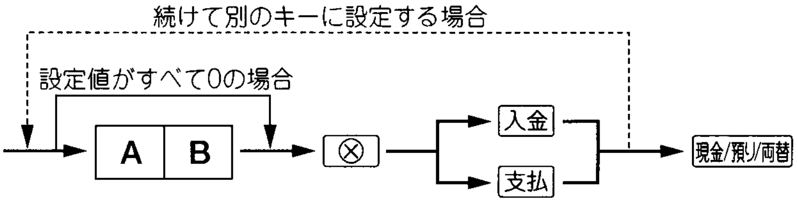
[例] [信用1]に“つり銭の支払い禁止”、“引出しを開く”、“預り金額の入力非強制”、“取引限度額100,000円(1 × 10^5)”を設定する場合

キー操作	印字
10015 [⊗] [信用1] [現金/預り/両替]	10015 信1

[入金]、[支払]キーへの設定

入金（準備）、支払い（回収）の登録制限桁数を設定しておくことができます。

■設定手順



初期値＝18

A	B
*制限桁数	
制限金額＝A×10^B A：1～9 B：0～8	

＊制限桁数用の置数データ（AB）は、登録の際に制限金額をもとめる基礎となる数値です。
制限金額は（A × 10^B）として計算されます。
（参考）制限を10,000円以下と設定する場合、10000＝1 × 10^4なので“AB”に“14”を置数します。

◆注　AとBにそれぞれ（A＝1、B＝8）を設定したときは、“制限桁数なし”となり、最大8桁まで登録できます。

[例] [支払]の取引限度額を10,000円(1 × 10^4)に設定する場合

キー操作	印字
14 [⊗] [支払] [現金/預り/両替]	14 払

認証印字の設定

認証キーに対して、認証印字の強制および認証印字回数が設定できます。この設定は、認証印字非強制のときは制限回数として、強制のときは強制回数としてはたらきます。

■設定手順

設定値がすべて0の場合

→ A B → [認証] → [現金/預り/両替]

初期値＝01

A	B
認証印字	印字回数
強　制：1 非強制：0	0～9

◆注　認証印字を強制すると、取引終了後、認証印字をおこなうまで次の登録ができなくなります。

［例］認証印字を非強制、認証印字回数を2回に設定する場合

キー操作	印字
2 [認証] [現金/預り/両替]	02#

信用売りのつり銭限度額の設定

信用売りの預り登録の際のつり銭限度額が設定できます。

■設定手順

"0円" に設定する場合

[小計] → "3"を置数 → [⊗] → つり銭限度額（最大8桁） → [小計] → [現金/預り/両替]

［例］信用のつり銭限度額を10,000円に設定する場合

キー操作	印字
[小計] 3 [⊗] 10000 [小計] [現金/預り/両替]	10000 信制 限度額

領収証の設定

(1) 領収証一連番号の設定

■設定手順

一連番号を"1"からスタートしたい場合

→ [一連番号（最大4桁）] → [領収証] → [現金/預り/両替]

［例］一連番号を"101"からスタートする場合

キー操作	印字
100 [領収証] [現金/預り/両替]	領 0100#

◆注1　スタートさせたい一連番号の一つ前の数値を設定してください。
◆注2　精算をおこなっても一連番号はスタート番号に戻りません。

(2) 収入印紙の貼付最小額の設定

設定した金額以上の領収証を発行したときに、収入印紙貼付枠を印字することができます。

■設定手順

"0円"に設定する場合

[小計] → "4"を置数 → [⊗] → [最小額（最大8桁）] → [小計] → [現金/預り/両替]

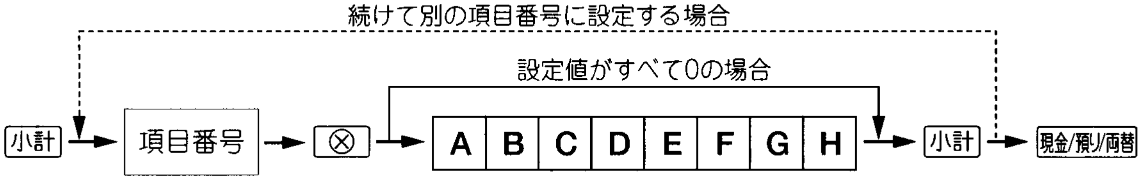
◆注　収入印紙の貼付最小額は、領収証に収入印紙の貼付が必要な最小金額を設定してください。

［例］収入印紙の貼付最小額を30,000円に設定する場合

キー操作	印字
[小計] 4 [⊗] 30000 [小計] [現金/預り/両替]	収 入 30000

選択機能の設定

■設定手順



項目番号：11

初期値＝00100000

A	B	C	D	E	F	G	H
(未使用)	登録モードでの出金登録	小数入力	登録モードでの				*現金/預り/両替キーの機能切り換え
			戻品キー入力	直前訂正	指定訂正	小計訂正	
常に：0	禁止：1 可能：0	禁止：1 可能：0	禁止：1 可能：0	禁止：1 可能：0	禁止：1 可能：0	禁止：1 可能：0	両替時の金額入力：1 現金単品売り：0

＊登録操作の最初に、金額を置数して 現金/預り/両替 キーを押した場合の機能を、“部門1への現金単品売り登録”または“両替時の金額入力”のいずれかに切り換えます。

項目番号：12

初期値＝00101000

A	B	C	D	E	F	G	H
(未使用)	計算機能の使用	*1西暦年の表示・印字	お買い上げ点数の印字	時刻の印字	記録紙への登録明細印字	登録モードでの時刻表示の解除	*2記録紙への日付印字
常に：0	しない：1 する：0	4桁：1 2桁：0	する：1 しない：0	する：1 しない：0	しない：1 する：0	CL キー：1 すべてのキー：0	する：1 しない：0

＊1 日付の西暦年の表示と印字を4桁にするか、下2桁にするかを設定します。2桁に設定すると日付の印字が1行になります。

＊2 登録・⊟・設定モードでの登録の際に、記録紙へ日付を印字するかしないかを設定します。

項目番号：13

初期値＝00000000

A	B	C	D	E	F	G	H
(未使用)	(未使用)	点検・精算表でのゼロスキップ					
		責任者	取引別	部門	PLU	時間帯	日計別売上
常に：0	常に：0	しない：1 する：0	しない：1 する：0	しない：1 する：0	しない：1 する：0	しない：1 する：0	しない：1 する：0

項目番号：14

初期値＝00000001

A	B	C	D	E	F	G	H
（未使用）	領収証控えの発行	（未使用）	点検・精算表への印字			レシート発行時の紙送り	一連番号の印字
			部門構成比率	グループ構成比率	平均取引		
常に：0	強制：1 禁止：0	常に：0	する：1 しない：0	する：1 しない：0	する：1 しない：0	する：1 しない：0	する：1 しない：0

[例] 項目番号＝13で、日計別売上レポートのみ“ゼロスキップしない”に設定する場合

キー操作	印字
[小計] 13[⊗] 1[小計] [現金/預り/両替]	13 00000001

レジスタ番号の設定

■設定手順

レジスタ番号を“0”に設定する場合

[小計] → “1”を置数 → [⊗] → レジスタ番号（最大3桁） → [小計] → [現金/預り/両替]

[例] レジスタ番号“123”を設定する場合

キー操作	印字
[小計]	123-0059
1 [⊗]	
123 [小計]	
[現金/預り/両替]	

一連番号の設定

取引番号を何番からスタートさせるか設定します。

■設定手順

一連番号を“1”からスタートしたい場合

[小計] → “2”を置数 → [⊗] → 一連番号（最大4桁） → [小計] → [現金/預り/両替]

[例] 一連番号を“1001”からスタートする場合

キー操作	印字
[小計]	123-1000
2 [⊗]	
1000 [小計]	
[現金/預り/両替]	

◆注1　スタートさせたい一連番号の一つ前の数値を設定してください。

◆注2　精算をおこなっても一連番号はスタート番号に戻りません。毎日同じ番号でスタートさせる場合は、開店前に設定しなおしてください。

設定内容の点検

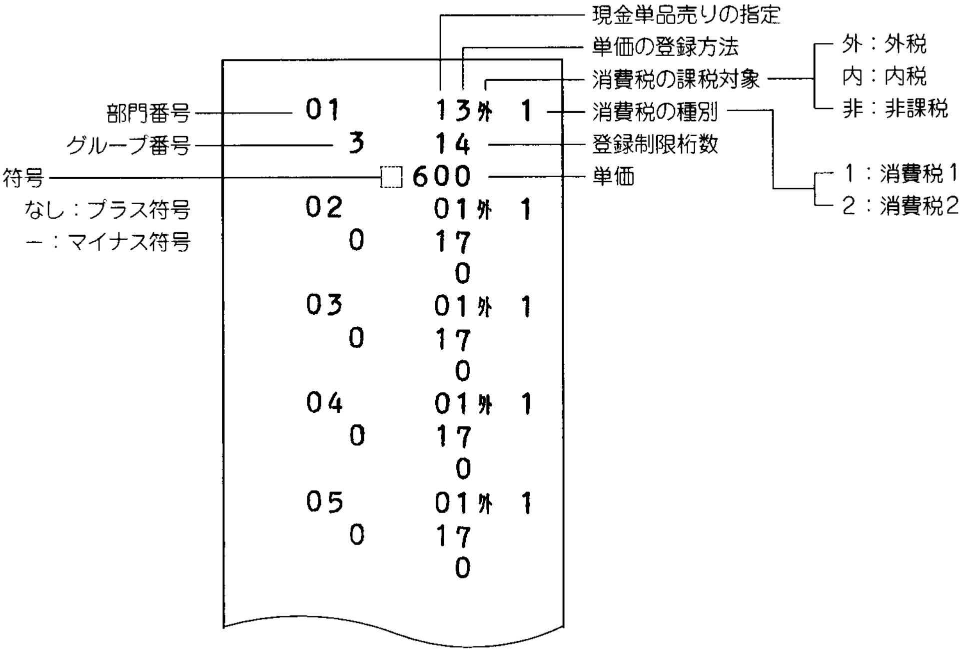
設定点検操作一覧表

機能切りかえスイッチを“設定”に合わせてください。

項　目	キ　ー　操　作	内　容
全項目設定	[現金/預り/両替]	PLU以外の全設定
PLU設定	→ [開始PLU番号] → [⊗] → [終了PLU番号] → [PLU]（開始PLU番号のみ点検／全PLUの点検）	PLUに対する設定

設定点検の印字例

(1) 全項目の設定点検（PLUは除く）



設定内容の点検

左の説明	印字内容	右の説明
	10　　03外　1	
	0　　17	
	1200	
符号	⊟50　⊝	値引額
	税	課税対象
値引の対象(単品/小計)	[0014]	制限桁数
符号	⊟0　%1	%1の割引率
	00	計算対象(単品/小計)
符号	⊟5　%2	%2の割引率
	10	計算対象(単品/小計)
	18　入	入金の登録制限桁数
	14　払	支払いの登録制限桁数
	000　現	現金/預り/両替キーの機能
	10015　信1	信用1の機能
	00018　信2	信用2の機能
	00018　掛	掛売の機能
	10000　信釣	信用のつり銭限度額
	収　入 30000	収入印紙の貼付最小額
	5•0000　税1	消費税1(税率)
	0	消費税1(免税点)
	0•0000　税2	消費税2(税率)
	0	消費税2(免税点)
	7•0000　税1	メンテナンス消費税1(税率)
	0#	メンテナンス消費税1(免税点)
	0•0000　税2	メンテナンス消費税2(税率)
	0#	メンテナンス消費税2(免税点)
	7　0020401#	税の自動更新日付 税の自動更新タイミング
	8　0040502	外税の端数処理 内税の端数処理 合計額の端数処理
項目番号	11 00100000 12 00101000 13 00000001 14 00000001	選択機能の設定
	領　0100#	領収証一連番号
	02#	認証印字の強制/認証印字回数

(2) PLUの設定点検

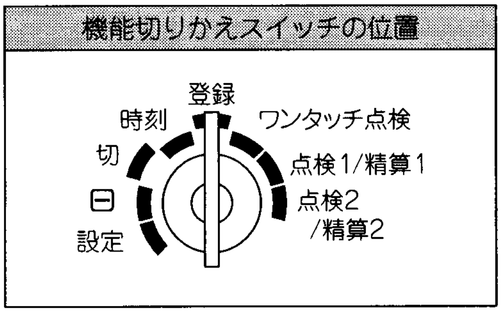
所属部門
PLU番号
単価の登録方法
単価

```
PL001 01 3
        1200
PL002 01 3
           0
PL003 01 3
           0
PL004 01 3
           0
PL005 01 2
           0
PL006 01 3
           0
PL007 01 3
           0
PL008 01 3
           0
PL009 01 3
           0
PL010 02 3
         500
PL011 01 3
           0
PL012 01 3
           0
PL013 01 3
           0
PL014 01 3
           0
PL015 01 3
           0
PL016 01 3
           0
PL017 01 3
           0
PL018 01 3
           0
PL019 01 3
           0
PL020 01 3
           0
```

各種登録のしかた

登録の前に

機能切りかえスイッチを“登録”の位置に合わせてください。



本書では、特にことわり書きのない限り、次のように設定した場合の登録の例で説明しています。

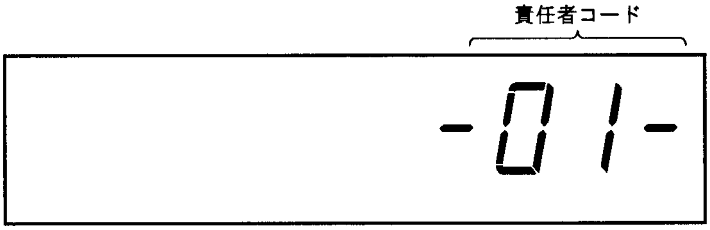
- 部門、PLU：外税課税対象
- 値引キー：課税
- 消費税1の税率：5.0000％
- 合計額の100円未満の端数処理：なし
- 内税の端数処理：四捨五入
- 外税の端数処理：切り捨て

最初に［責任者］キーを押して責任者コードを確認し、変更するときは責任者の登録をおこなってください。責任者の登録のしかたについてくわしくは「責任者キー(責任者の登録)」を参照してください。

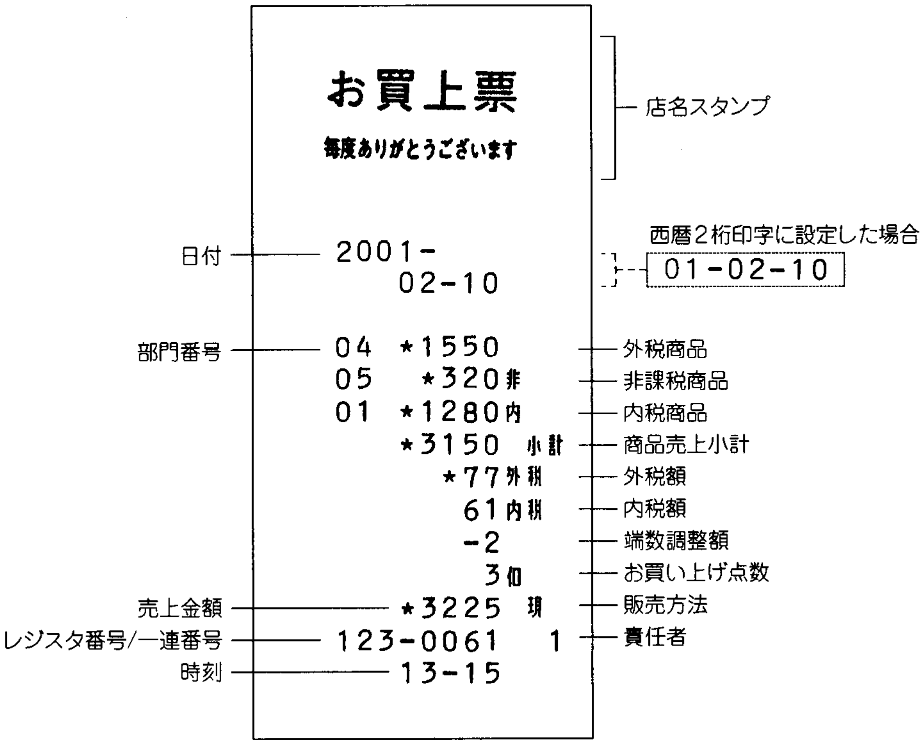
責任者登録：［責任者コード（1～4）］ ──→ ［責任者］

◆注　登録中に責任者の登録を変更することはできません。取引を終了させてから次の責任者を登録してください。

責任者が登録されると、責任者コードが次のように表示されます(責任者コード1の場合)。



(1) レシートのみかた

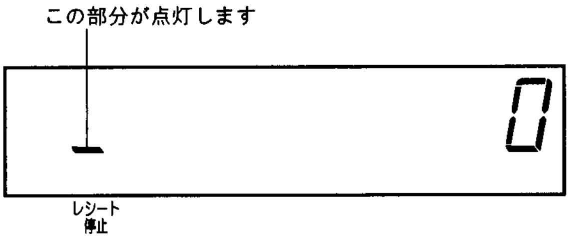


（合計額の100円未満の端数処理：4拾0入,一連番号を印字する、お買い上げ点数を印字するに設定されている場合）

(2) レシート発行/停止の切りかえ

[レシート発行/停止]を押して、レシートの発行/停止を切りかえます。
レシートの発行が停止状態のときは、表示部の下図の部分が点灯し、記録印字だけをおこないます。発行状態のときは、この部分は点灯しません。

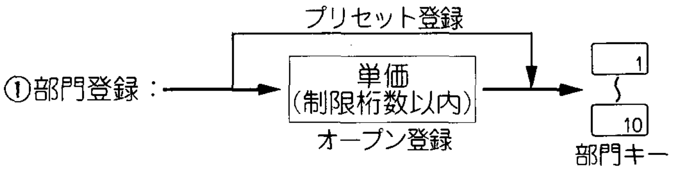
◆注　レシートの発行が停止状態でも、機能切りかえスイッチが“登録”“ワンタッチ点検”の位置以外で操作された場合は、レシートが発行されます。そのため、レシート側のロール紙は常にセットしておいてください。

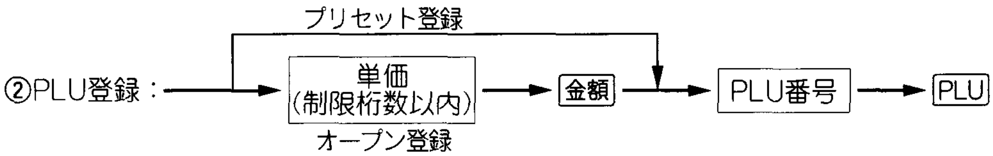


単品登録

単価を置数によって入力するオープン登録と、あらかじめ設定されている単価を使用するプリセット登録があります。

■操作手順





- オープン登録用単価：制限桁数以内(最大7桁)で登録できます。
- PLU番号： 1～999…定義されているPLU

[例] 以下の商品を現金売りする場合

- ・単価3,800円(部門4、オープン登録)の商品を1個
- ・単価5,000円(部門5、プリセット登録)の商品を1個
- ・単価1,200円(PLU2、プリセット登録)の商品を1個
- ・単価700円(PLU5、オープン登録)の商品を1個

キー操作	表示部	印字
3800 [4]	04 3.800	04 *3800
[5]	05 5.000	05 *5000
2 [PLU]	002 1.200	PL002*1200
700 [金額] 5 [PLU]	005 700	PL005 *700
[現金/預り/両替]	F 11.235	*10700 小計
		*535 外税
		*11235 現

同一商品の複数登録

(1) リピート(くり返し)登録

同じ商品を複数個続けて登録するときに使用します。数量が少ないときに使用すると便利です。

■操作手順

- 部門キーを押した登録のリピート登録：単品登録後、同じ部門キーを続けて押します。
- PLUのリピート登録：単品登録後、[PLU]キーを続けて押します。

◆注1　小計金額が9,999,999円までなら何回でもリピート登録ができます。
◆注2　リピート登録途中にほかの有効キー(たとえば置数キーなど)を押すと、その後はリピート登録を継続できません。

[例] 以下の商品を現金売りする場合
・単価600円(部門4、プリセット登録)の商品を2個
・単価800円(PLU5、オープン登録)の商品を2個

キー操作	表示部
[4]	04　600
[4]	2　600
800 [金額] 5 [PLU]	005　800
[PLU]	2　800
[現金/預り/両替]	F　2,940

印字

```
04      *600
04      *600
PL005   *800
PL005   *800
      *2800 小計
       *140 外税
      *2940 現
```

(2) 乗算登録

同じ商品を複数個まとめて登録するときに使用します。数量が多いときに使用すると便利です。

■操作手順

①部門登録：

オープン登録 ──→ [単価] ─→ [⊗] ─→ [数量] ─→ [1]〜[10] 部門キー

プリセット登録 ─→ [数量] ─→ [⊗] ─→ [1]〜[10] 部門キー

②PLU登録

オープン登録 ──→ [単価] ─→ [⊗] ─→ [数量] ─→ [金額] ─→ [PLU番号] ─→ [PLU]

プリセット登録 ─→ [PLU番号] ─→ [⊗] ─→ [数量] ──→ [PLU]

単価：制限桁数以内(最大7桁)、数量：最大4桁、単価×数量：最大7桁

◆注1　乗算登録のリピートはできません。

◆注2　「選択機能の設定(項目番号＝11)」で小数入力を“可能”に設定している場合は、数量を小数3桁まで登録できます。小数部を入力するときは、[・]キーを押してから置数してください。

［例］以下の商品を現金売りする場合

- 単価600円(部門4、プリセット登録)の商品を5個
- 単価1,000円(部門5、オープン登録)の商品を4個
- 単価500円(PLU5、プリセット登録)の商品を7個

キー操作	表示部
5 [⊗] [4]	04　3.000
1000 [⊗]　4 [5]	05　4.000
5 [⊗]　7 [PLU]	005　3.500
[現金/預り/両替]	F　11.025

印字

```
          5 個
        600 @
04    *3000
          4 個
       1000 @
05    *4000
          7 個
        500 @
PL005*3500
    *10500 小計
       *525 外税
    *11025 現
```

現金単品売り登録

現金単品売りの機能が設定されている部門(現金単品売り部門)、あるいはその部門に所属しているPLUにこの機能がはたらきます。
登録(部門、PLUキーを押した時点)と同時に、現金売りとして取引が自動的に終了します。

◆注1　登録操作の最初に使用する場合にのみはたらきます。通常の部門(またはPLU)登録後、この機能が設定された部門(またはPLU)を登録しても取引は終了せず、通常の登録となります。
◆注2　登録操作の最初に、金額を置数してから[現金/預り/両替]キーを押すと、部門1への現金単品売り登録としてはたらきます。(「選択機能の設定(項目番号＝11)」で[現金/預り/両替]キーに現金単品売りの機能が設定されている場合)

［例］部門9が現金単品売りに設定されている場合

キー操作	表示部	印字
5000 [9] ↑ 取引終了	F 5,250	09 *5000 *5000 小計 *250 外税 *5250 現

小計のもとめかた

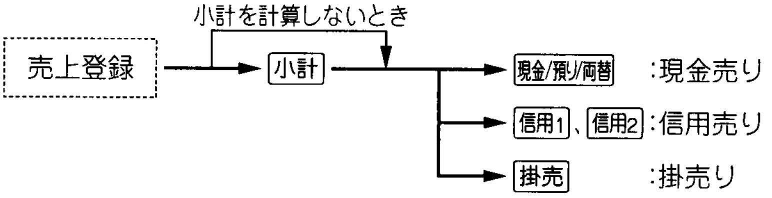
登録途中、任意の時点で小計金額を確認できます。
[小計]キーを押してください。表示部に“□”が点灯し、税額を含む登録中の小計が表示されます。

◆注　1回の取引に許される商品小計額は7桁以内(9,999,999円以内)で、それを超える登録は制限桁数エラーとなります。

現金売り、信用売り、掛売り登録

登録を終了するには次の3つの方法があります。
①現金売り
②信用売り
③掛売り

■操作手順



◆注　小計金額を表示するときは[現金/預り/両替]、[信用1]、[信用2]、[掛売]キーの前に[小計]キーを押してください。

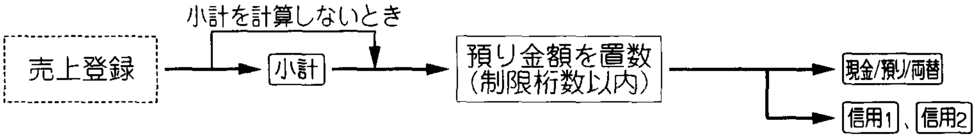
［例］単価4,000円の商品(部門4)1個をそれぞれ、①現金売り、②信用売り、③掛売りする場合

	キー操作	表示部	印字
①	4000 [4] [現金/預り/両替]	04　4.000 F　4.200	04 *4000 *4000 小計 *200 外税 *4200 現
②	4000 [4] [信用1]	04　4.000 F　4.200	04 *4000 *4000 小計 *200 外税 *4200 信1
③	4000 [4] [掛売]	04　4.000 F　4.200	04 *4000 *4000 小計 *200 外税 *4200 掛

預り登録

現金売り、信用売りの預り登録ができます。ただし、小計金額がマイナスまたは0の場合は預り登録できません。

■操作手順



(1) つり銭計算

売上金額に対して預り金額が多いときは、表示部に“C”とつり銭金額が表示されます。

[例] 小計4,200円に対して現金で5,000円を預った場合

キー操作	表示部	印字
∫		*4000 小計 *200 外税 *4200 計 *5000 現 *800 釣
小計	o 4.200	
5000 現金/預り/両替	C 800	

◆注　信用売りの預り登録の場合は、現金/預り/両替キーのかわりに信用1、信用2キーを押してください。この場合のつり銭は、現金支払いとします。

(2) 預り金額不足の登録

売上金額に対して預り金額が不足しているときは、不足額が表示されます。再度、預り登録または丁度締め操作(預り金額を置数せずに直接キーを押す)をしてください。
2回目以降の預り金額が不足額よりも多いときは、つり銭計算をおこないつり銭を表示します。

[例 1] 小計5,250円に対して現金で5,000円を預り、再度現金で1,000円を預る場合

キー操作	表示部	印字
∫		*5000 小計 *250 外税 *5250 計 *5000 現 *1000 現 *750 釣
小計	o 5.250	
5000 現金/預り/両替	o 250	
1000 現金/預り/両替	C 750	

［例2］ 小計5,250円に対して現金で5,000円を預り、不足分を掛売りする場合

キー操作	表示部	印字
〜		
[小計]	o 5.250	*5000 小計
5000 [現金/預り/両替]	o 250	*250 外税
[掛売]	F 250	*5250 計
		*5000 現
		*250 掛

(3) [万円]キーを使用した現金売りの預り登録

1万円札の現金預り登録には、[万円]キーを使用すると簡単に置数操作がおこなえます。また点検・精算表に1万円札の枚数を集計します。(ただし、置数で“10000”と入力しても点検・精算表には加算されません。)

[万円]キーは、入金登録や支払い登録、または両替登録(ただし、「選択機能の設定(項目番号＝11)」で[現金/預り/両替]キーの機能切り換えを“両替時の金額入力”として選択している場合)でも使用できます。

例) [万円] ─→ 10000、5[万円] ─→ 50000

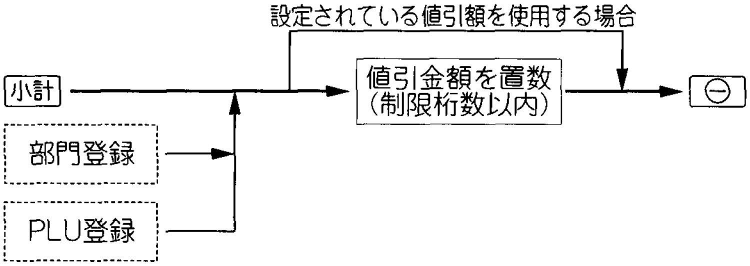
［例］ 小計23,100円に対して現金で25,000円を預った場合

キー操作	表示部	印字
〜		
[小計]	o 23.100	*22000 小計
2[万円] 5000	25.000	*1100 外税
[現金/預り/両替]	C 1.900	*23100 計
		*25000 現
		*1900 釣

値引登録

[⊖]キーを使用して、小計からの値引、または部門、PLUからの値引ができます。

■操作手順



(1) 小計からの値引

[小計]キーを押し、小計をもとめてから値引します。

［例」小計額2,215円から3円を値引する場合

キー操作	表示部	印字
∫		*2110 小計
[小計]	o 2,215	-3 ⊖
3[⊖]	-3	*2107 小計
[現金/預り/両替]	F 2,212	*105 外税
		*2212 現

◆注　「[⊖]キーへの設定」の「(2)値引きの機能設定」で、非課税を設定しておくと、消費税を計算したあとの合計から値引できます。

(2) 部門、PLUの登録金額からの値引

対象となる部門、PLUの登録の直後に値引します。

［例」3,110円の商品(部門4)から10円(設定金額)を値引する場合

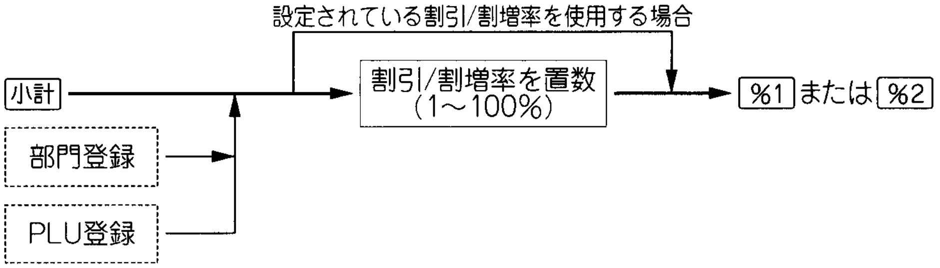
キー操作	表示部	印字
3110[4]	04 3,110	04 *3110
[⊖]	-10	-10 ⊖
[現金/預り/両替]	F 3,255	*3100 小計
		*155 外税
		*3255 現

◆注　税の属性は、部門に設定された属性と値引キーに設定された属性が合致する条件のみ有効になります。

パーセント計算(割増・割引登録)

[%1]、[%2]キーを使用して、小計または部門、PLUに対してパーセント計算(割引、割増)をおこなうことができます。
パーセント計算結果は、円以下1桁目を四捨五入します。計算結果の端数について、切り上げまたは切り捨て処理を希望されるときは、お買い上げいただいた販売店にご相談ください。

■操作手順



◆注 「選択機能の設定(項目番号＝11)」で小数入力を“可能”に設定している場合は、割引/割増率を小数2桁(0.01～100.00%)まで入力できます。小数部を入力するときは、[・]キーを押してから置数してください。

(1) 小計に対するパーセント計算

[小計]キーを押し、小計をもとめてからパーセント計算します。
小計が0またはマイナスのとき、小計に対するパーセント計算はできません。

[例] 小計額4,095円から5%割引する場合([%2]キーに割引率5%が設定されているとき)

キー操作	表示部
⁀	
[小計]	o 4.095
[%2]	-195
[現金/預り/両替]	F 3.890

印字

```
*3900 小計
   -5 %2
 -195
*3705 小計
 *185 外税
*3890 現
```

(2) 部門、PLUの登録金額に対するパーセント計算

マイナス部門に対するパーセント計算はできません。

[例] 3,600円の商品(部門4)から10％を割引する場合

キー操作	表示部
3600 [4]	04 3.600
10 [%1]	-360
[現金/預り/両替]	F 3.402

印字

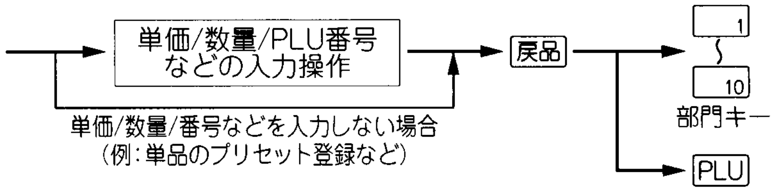
```
04  *3600
      -10  %1
     -360
    *3240  小計
     *162 外税
    *3402  現
```

◆注　税の属性は、部門に設定された属性とパーセントキーに設定された属性が合致する条件のみ有効になります。

戻品(返品)の登録

戻品(返品)の登録は、返品の操作をおこなう場合に使用します。

■操作手順



乗算による戻品登録や戻品のリピート登録もできます。

[例] 単価800円(部門4)の商品を1個、単価1,200円(PLU2)の商品を1個返品登録する場合

キー操作	表示部
800 [戻品] [4]	04 -800
2 [戻品] [PLU]	002 -1.200
[現金/預り/両替]	[2.100

印字

```
   04   -800 戻
PL002-1200 戻
       -2000 小計
        -100 外税
       *2100  釣
```

◆注　信用戻品、掛売り戻品の場合は[現金/預り/両替]キーのかわりに[信用1]、[信用2]、[掛売]キーを押してください。

非課税シフト

商品登録の際、部門キー、PLUキーの前に[非課税]キーを押すと、消費税課税対象(外税、内税)の商品を非課税品として登録することができます。

［例］単価2,000円の商品(部門3、外税対象)と、単価1,000円の商品(PLU1、外税対象)をそれぞれ消費税非課税として現金売りする場合

キー操作	表示部	印字
2000 [非課税] [3]	03　2.000	03　*2000 非
1 [非課税] [PLU]	001　1.000	PL001 *1000 非
[現金/預り/両替]	F　3.000	*3000 現

不加算コードの印字

商品管理用のコード番号やクレジットカードの番号などを最大8桁まで印字できます。(合計器には加算されません)
任意の時点でコード番号を置数し、[#/時刻]キーを押してください。

［例］商品管理用コード“12345”を登録して単価3,000円(部門5)の商品を現金売りする場合

キー操作	表示部	印字
12345 [#/時刻]	12345	00012345#
3000 [5]	05　3.000	05　*3000
[現金/預り/両替]	F　3.150	*3000 小計
		*150 外税
		*3150 現

両替

取引が終了しているとき、[現金/預り/両替]キーを押してください。引出しが開き、両替することができます。

◆注「選択機能の設定(項目番号＝11)」で[現金/預り/両替]キーの機能切り換えを“両替時の金額入力”に選択している場合は、金額を置数してから[現金/預り/両替]キーを押すと、両替金額が登録できます。

キー操作	表示部	印字
[現金/預り/両替]	0	替

入金の登録

売上以外の入金やつり銭用の準備金を登録するときに使用します。

■操作手順

→ [入金額を置数（制限桁数以内）] → [入金]

◆注　現金による入金額の置数には、[万円]（万札）キーが使用できます。

［例］36,500円の入金を登録する場合

キー操作	表示部	印字
36500 [入金]	36500	*36500 入

支払いの登録

種々の支払い金や、引出しからの回収金を登録するときに使用します。

■操作手順

→ [支払い金額を置数（制限桁数以内）] → [支払]

◆注　現金による支払い金額の置数には、[万円]（万札）キーが使用できます。

［例］12,600円の支払いを登録する場合

キー操作	表示部	印字
12600 [支払]	12600	*12600 払

取引終了後のレシート発行

レシートの発行が停止状態で取引を終了した後、お客様の要望などでレシートを発行させたいときは、取引操作終了直後に[後レシート]キーを押すと、レシートを発行することができます。

◆注　レシートには、記録紙に印字された番号と同じ一連番号が印字されます。

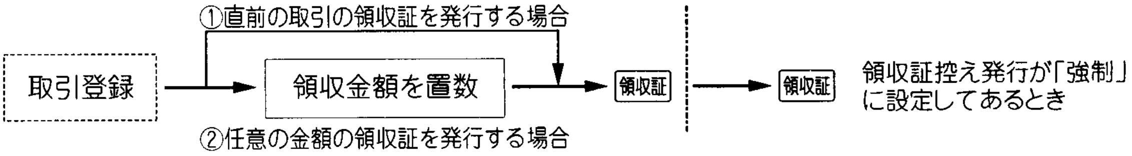
［例］単価800円(部門4)の商品をレシート停止状態で現金売りし、後でレシート発行する場合

キー操作	表示部	印字
800 [4]	04 800	04 *800 *800 小計 *40 外税 *840 現
[現金/預り/両替]	F 840	
記録紙のみ印字 →		
[後レシート]	F 840	04 *800 *800 小計 *40 外税 *840 現
レシートのみ印字 →		

領収証の発行

お客様の要望などで領収証が必要なときは、次の操作で発行することができます。

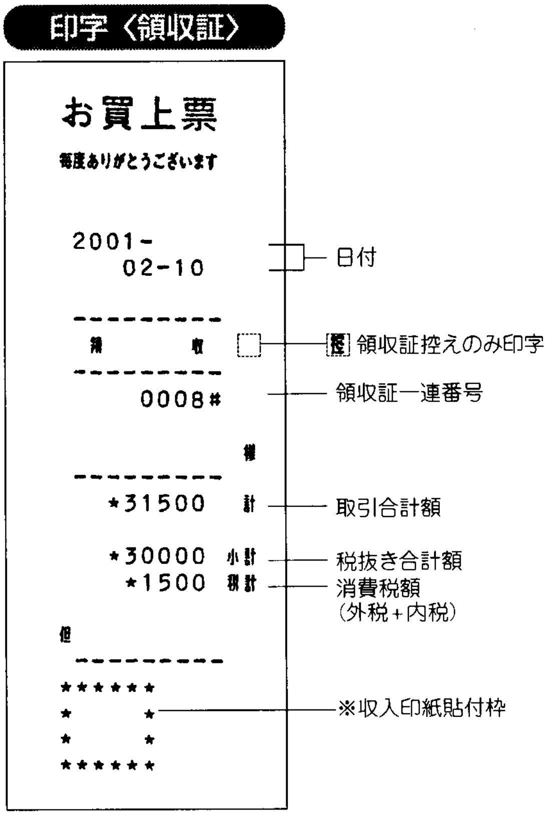
■操作手順



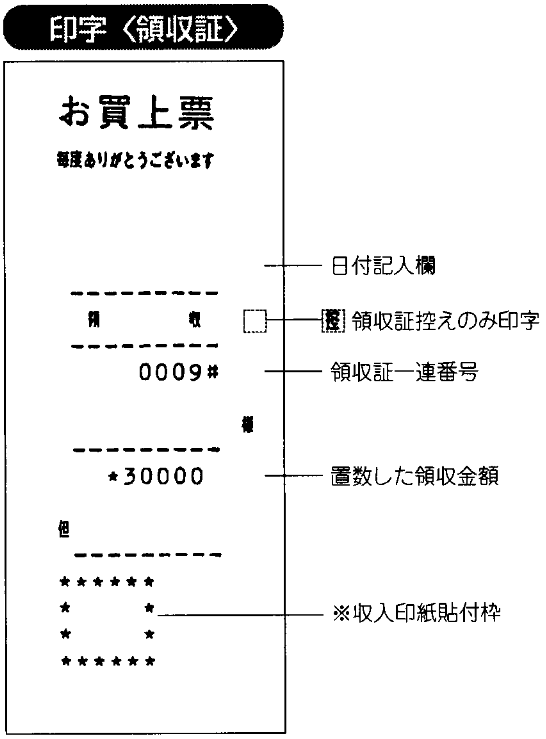
◆注1　登録中に領収証は発行できません。取引を終了させてから発行操作をおこなってください。
◆注2　直前の取引の領収証は、1回に限り発行できます。

■印字例

①直前の取引の領収証を発行



②任意の金額の領収証を発行



※収入印紙貼付枠は、下記の金額が収入印紙の貼付最小額に設定してある金額以上になると印字されます。ただし、領収証控えには印字されません。
①の場合：税抜き合計額　②の場合：置数した領収金額

●領収証控え発行強制のときは

表示部に“П”が点灯し、領収証控え発行が強制されているときは、領収証控えを発行するまで他のキー操作を受けつけません(エラー状態になります)。
もう一度[領収証]キーを押して、領収証控えを発行してください。

計算機能の使いかた（表示のみの操作）

取引登録の終了後や、登録操作途中に計算機能を使うことができます（印字はされません）。
計算機能を使うときは、[CAL 支払]キーを2回押し、計算モードに入ります（計算モードの指定）。計算モードに入ると、表示部に“c”が表示されます。
計算モードのときに[CAL 支払]キーを1回押すと、計算モードが解除されます。

◆注1　計算できる範囲は、±99,999,999です。
◆注2　「選択機能の設定（項目番号：12）」で計算機能の使用を“しない”に設定しているとき、計算機能は使えません。

[例1] 4,800円の商品(部門1、消費税外税対象)を売り、3人で割り勘にする場合

キー操作	表示部	
4800 [1]	01　4.800	商品の登録
[CAL 支払] [CAL 支払]	c　0	計算機能を使う(計算モードの指定)
[RM 入金]	c　5040	小計額の呼び出し
[÷ 4] 3 [= 現金/預り/両替]	c　1680	割り勘額の計算
[CAL 支払]	o　5.040	商品の登録に戻る(計算モードの解除)
[現金/預り/両替]	F　5.040	登録の終了

◆注1　小計額が表示されているときに、[CAL 支払]キーを2回押して計算モードに入ると、小計額がメモリーに記憶されます。
◆注2　数字を打ちまちがえたときは、[C CL]キーを押します。
◆注3　計算途中で引き出しを開けたいときは、計算モードのまま[#/時刻]キーを押します。

[例2] 1,200円の商品(部門2、消費税外税対象)15個を、計算機能を使って合計して売る場合

キー操作	表示部	
[CAL 支払] [CAL 支払]	c 0	計算機能を使う(計算モードの指定)
1200 [× 3] 15 [= 現金/預り/両替]	c 18000	合計額の計算
[RM 入金]	c 18000	計算結果をメモリーに記憶
[CAL 支払]	0	商品の登録に戻る(計算モードの解除)
[RM 入金]	18.000	メモリーから計算結果を呼び出す
[2]	02 18.000	商品の登録
[現金/預り/両替]	F 18.900	登録の終了

◆注1 計算値を登録で使うときは、[RM 入金]キーを押しメモリーに記憶させてください。計算モードから登録に戻っても、メモリーには記憶されません。

◆注2 メモリーに記憶された数値に小数が含まれているとき、登録に戻って呼び出した数値は、小数点以下が切り捨てられます。

◆注3 メモリー計算をするときには、[RM 入金]キーを使います。

例：

	900×3＝	900 [× 3] 3 [= 現金/預り/両替] [RM 入金]
+)	500÷5＝	500 [÷ 4] 5 [+ 1] [RM 入金]
	(計) ＝	[= 現金/預り/両替]

◆注4 メモリーをクリアするには、[RM 入金]キーを2回押します。

訂正のしかた

登録時の訂正

(1) 置数の訂正

間違って置数したときは[CL]キーを押した後、正しく登録し直してください。

(2) 登録直後の訂正（直前訂正）

部門、PLU、値引、パーセント計算(割引、割増)、戻品を登録した直後に訂正する場合は、[訂正]キーを押してください。その直前の登録を訂正することができます。

［例］各登録を以下のように直前訂正する場合

キー操作	表示部
3000 [4]	04　3.000
4000 [5]	05　4.000
[訂正]	05　-4.000
2 [PLU]	002　1.200
[訂正]	002　-1.200
[小計]	o　3.150
[%2]	-210
[訂正]	210
820 [戻品] [5]	05　-820
[訂正]	05　820
[現金/預り/両替]	F　3.150

印字

```
   04  *3000
   05  *4000
   05  -4000   訂
 PL002*1200
 PL002-1200    訂
       *3000 小計
          -7  %2
        -210
        *210   訂
   05   -820   戻
   05   *820 戻訂
       *3000 小計
        *150外税
       *3150   現
```

(3) 数行前の訂正（指定訂正）

部門、PLU、戻品については、数行前の登録でも訂正できます。
通常の登録と同じように単価、個数などを入力し、[訂正]キーを押してから部門キー、PLUキーを押してください。

［例］各登録を以下のように指定訂正する場合

キー操作	表示部
3000 [4]	04 3.000
4000 [5]	05 4.000
2 [PLU]	002 1.200
820 [戻品] [5]	05 -820
4000 [訂正] [5]	05 -4.000
2 [訂正] [PLU]	002 -1.200
820 [戻品] [訂正] [5]	05 820
[現金/預り/両替]	F 3.150

印字

```
04  *3000
05  *4000
PL002*1200
05   -820 戻
05  -4000  訂
PL002-1200 訂
05   *820 戻訂
    *3000 小計
     *150外税
    *3150 現
```

◆注　取引の締め操作を始めた後は、指定訂正できません。

(4) 全項目の一括取り消し（小計訂正）

登録操作の途中で、その取引のそれまで登録した内容をすべて取り消すことができます。
登録操作の任意の時点で、[小計]キーを押し、続けて[訂正]キーを押してください。登録中のすべての内容が取り消され、レシートが発行されます。

［例］登録内容を以下のように取り消す場合

キー操作	表示部
3000 [4]	04 3.000
1000 [⊗] 4 [5]	05 4.000
2 [PLU]	002 1.200
[小計]	o 8.610
[訂正]	0

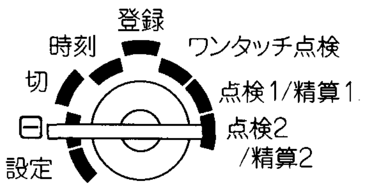
印字

```
04  *3000
        4個
    1000@
05  *4000
PL002*1200
    *8200 小計
    -8200 小訂
       *0 計
```

◆注　取引の締め操作を始めた後は、全項目の一括取り消しはできません。

レシート発行後（取引終了後）の取り消し

機能切りかえスイッチの位置



誤ったレシートを発行したときや返品があったときは、レシートの取り消しがおこなえます。
機能切りかえスイッチを管理者鍵(ＭＡ)を使って“⊟”の位置に合わせます。このとき、表示部の10個の小数点がすべて点灯し、取り消しのモード（レジマイナスモード）に入ります。

1）責任者を登録してください。
2）誤りレシートや返品レシートと同じように登録してください。

“登録”位置でのレシート
（誤りレシート）

```
04      *300
05      *650
        *950  小計
         *47 外税
        *997  現
000-0075     1
```

“⊟”位置でのレシート
（取り消しレシート）

```
04      *300
05      *650
        *950  小計
         *47 外税
        *997  現
000-0076    ⊟1
```

“⊟”の位置で登録した場合は、すべての機能が“登録”の位置での登録と逆(負)に登録され、それぞれの合計金額から取り消し金額が差し引かれます。
取り消し金額も同様に専用合計器に加算されますから、精算の際、一日の取り消し金額を確認することができます。

◆注１　誤りレシート(または返品レシート)とその取り消しレシートは、取り消しの証拠となります。必ず保管して、一日の精算をするときのチェックに反映させてください。

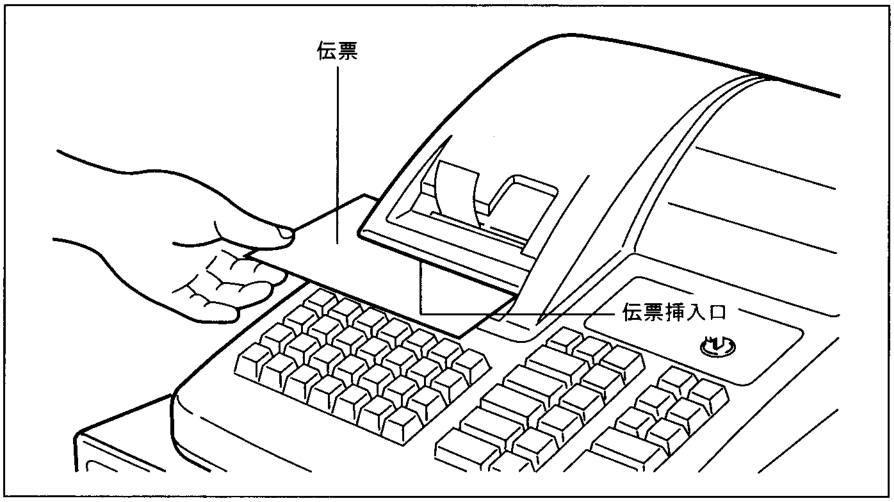
◆注２　取り消しの操作をおこなった後は、必ず機能切りかえスイッチを元の位置に戻してください。

認証印字機能

売上合計額の認証印字を、登録モード、[—](レジマイナス)モードで、おこなうことができます。

認証印字のしかた

登録が終了した後(取引の締め操作後、入金、支払い登録後)、伝票の印字面を下にして伝票を伝票挿入口に挿入し、[認証]キーを押してください。
認証印字はあらかじめ設定した回数までおこなうことができます。ただし、認証印字強制に設定してあるときは、設定した回数の認証印字が強制されます。



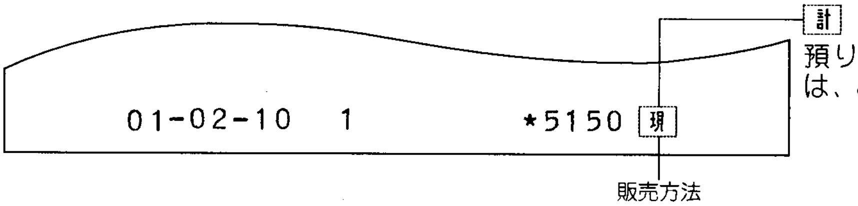
◆注　伝票が奥まで入っていなかったり、右端いっぱいに位置していないときは、正しく印字できないことがありますから注意してください。

●認証印字強制のときは

表示部に“U”が点灯し、認証印字が強制されているときは、認証印字をおこなうまで他のキー操作を受けつけません(エラー状態になります)。
[認証]キーを押して、認証印字をおこなってください。

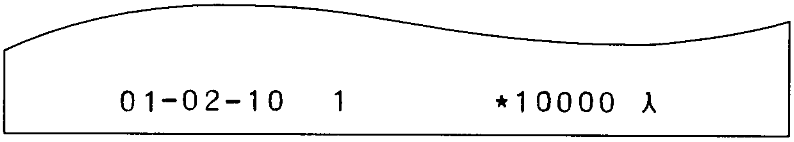
認証印字例

①取引締め操作後の印字例

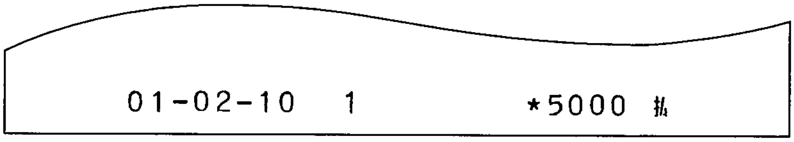


預り登録をおこなった場合は、このように印字します。

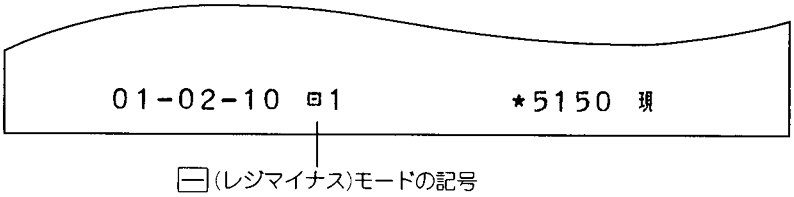
②入金登録後の印字例



③支払い登録後の印字例



④[－](レジマイナス)モードでの印字例



◆注１　日付のかわりにレジスタ番号と一連番号を印字させることもできます。本機をお買い上げいただいた販売店にご相談ください。

◆注２　「選択機能の設定（項目番号：12)」で西暦の表示・印字を４桁に設定している場合でも、認証印字は常に年が下２桁で印字されます。

認証伝票用紙の規格

伝票用紙は次の規格にしたがって作成してください。

◆注　規格外の用紙を使用しないでください。故障の原因になります。

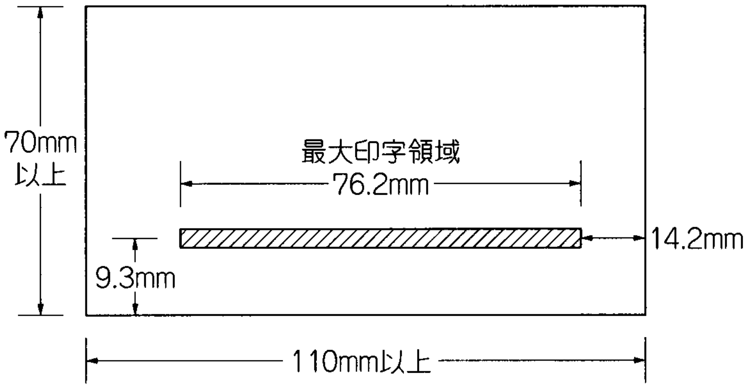
(1)用紙の種類

普通紙：厚さ0.09～0.14mm

(2)寸法

幅110mm以上×高70mm以上

(3)印字位置



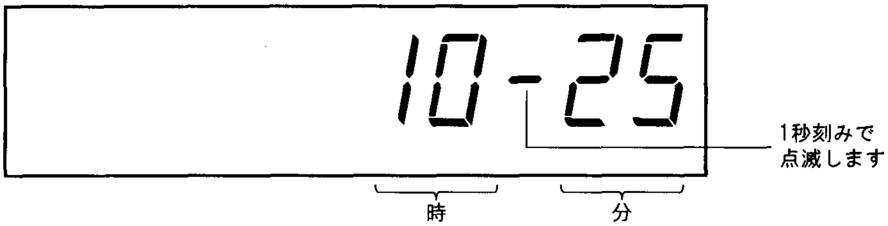
時刻と日付の表示および出退時刻印字

時刻と日付の表示

(1) 時刻の表示

機能切りかえスイッチを“時刻”の位置に合わせると現在の時刻が表示されます。
また、機能切りかえスイッチが“登録”または“[−]”の位置では、前の取引や操作が終了しているときに[#/時刻]キーを押すと、時刻が表示できます。この表示は[CL]キーまたは置数などのキー入力操作によって解除されます。

• 午前10時25分の表示例

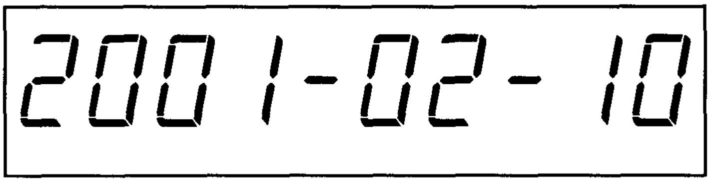


◆注　午後10時25分は“22-25”と表示されます。(24時間制)
　　12時間制の時刻表示を希望されるときは、お買い上げいただいた販売店にご相談ください。

(2) 日付の表示

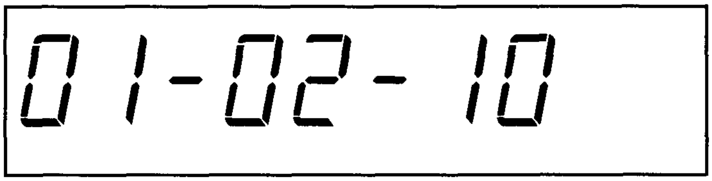
時刻を表示している状態で[#/時刻]キーを押すと、日付が表示できます。

●西暦4桁表示のとき（出荷時）



2001年2月10日の場合

●西暦2桁表示のとき



2001年2月10日の場合

◆注1　[#/時刻]キーを押すごとに、時刻と日付を交互に表示します。
◆注2　西暦年の表示と印字は4桁から2桁に設定を変更することができます。(38ページ)

出退時刻の印字

認証印字機能(「認証印字機能」参照)を用いて、従業員の出社時刻、退社時刻などを印字することができます。

■操作手順

1) 機能切りかえスイッチを“時刻”の位置に合わせます。
2) 責任者コードを入力し、続けて[責任者]キーを押します。
3) 伝票を(印字面を下にして)認証伝票挿入口に挿入し、次の操作をおこないます。

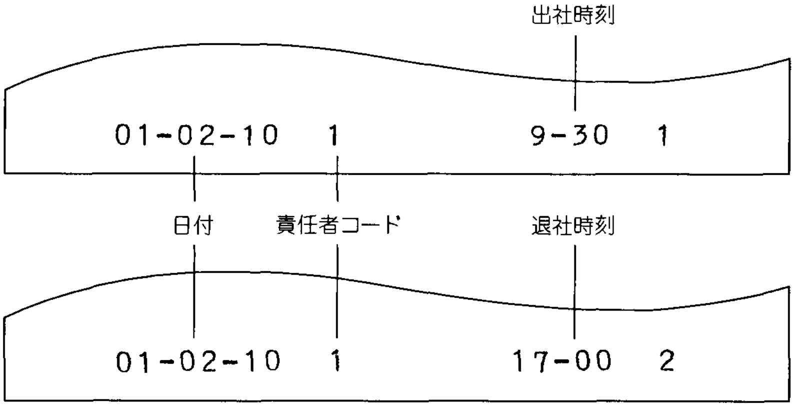
●出社時刻の印字(記録紙側に印字します。)

1 ──→ [認証]

●退社時刻の印字(記録紙側に印字します。)

2 ──→ [認証]

• 出退時刻の印字例



◆注 「選択機能の設定(項目番号:12)」で西暦の表示・印字を4桁に設定している場合でも、出退時刻の印字では常に年が下2桁で印字されます。

日計売上の点検と精算

●点検

営業時間中に売上高を確認するときにおこないます。売上の点検をおこなっても記憶内容は消えません。

売上の点検は必要に応じて何回でもおこなえます。

売上高や現金在高については、表示でも確認することができます(ワンタッチ点検)。

●精算

1日の売上高をクリアする(記憶内容をゼロにする)ときにおこないます。

売上の精算は営業終了時に、毎日必ずおこなってください。精算しないと、次の日に売上が加算されてしまいます。

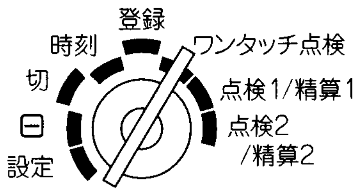
・**日計売上の点検および精算は次のページの表に示す各項目についておこなうことができます。**

売上高・現金在高の表示(ワンタッチ点検)

次のキー操作によって、売上の総合計、時間帯別売上、部門グループ別売上、部門別売上および現金在高を表示できます。(この点検操作は表示のみで、点検表は印字しません。)

■操作手順

機能切りかえスイッチの位置



●機能切りかえスイッチ
“ワンタッチ点検” の位置に合わせます。

税込み総合計の表示：→ [小計] ［1,867,480］

時間帯別売上の表示：→ [時間帯(1~2桁)を置数] → [#/時刻] ［89,255］

部門グループ別売上の表示：→ [グループ番号を置数] → [掛売] ［1,806,443］

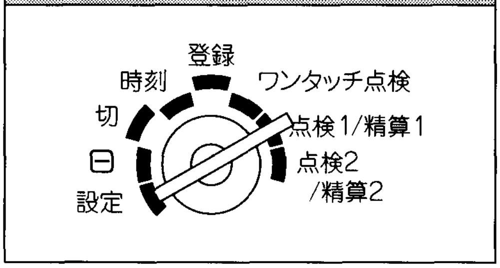
部門別売上の表示：→ [1]～[10] (部門キー) ［356,450］

現金在高の表示：→ [現金/預り/両替] ［1,225,480］

点検/精算表の発行

■操作手順

機能切りかえスイッチの位置



●機能切りかえスイッチ
"点検 1/精算 1" の位置に合わせます。

責任者を変更するときは
"点検 1/精算 1"に切りかえる前に、責任者の登録をおこなってください。責任者の登録のしかたについてくわしくは「責任者キー(責任者の登録)」を参照してください。
機能切りかえスイッチの位置：時刻·登録·[ー]

責任者登録：[責任者コード(1～4)] ──→ [責任者]

●練習データクリア
レジスタの操作練習で登録されたデータ内容を消去する(記憶内容をゼロにする)ことができます。この操作はレジスタ設置直後の練習が終わったときのみおこなってください。<u>**実際の登録を開始した後は絶対におこなわないでください。**</u>それまでの売上データがすべてゼロになってしまいます。

■操作手順(機能切りかえスイッチを"設定"の位置に切りかえます。)

2912 ──→ [•] ──→ [⊗] ──→ [現金/預り/両替]

```
          2912#

  *-*-*-*     #
```

(練習データクリアの印字)

◆点検/精算表発行時の注意点…点検/精算表の印字を中止することはできません。
精算表を印字すると、各合計器がクリアされますのでご注意ください。

項目	点検/精算	キー操作
全責任者	点検	[責任者]
	精算	[•] → [責任者]
全部門グループ	点検	[掛売]
全PLU/区間PLU	点検	→ [開始PLU番号] → [⊗] → [終了PLU番号] → [PLU]（開始PLU番号のみ点検：[⊗]の後 [終了PLU番号] を省略／全PLUの点検：[開始PLU番号] → [⊗] → [終了PLU番号] を省略）
	精算	→ [開始PLU番号] → [⊗] → [終了PLU番号] → [•] → [PLU]（開始PLU番号のみ精算：[⊗]の後 [終了PLU番号] を省略／全PLUの精算：[開始PLU番号] → [⊗] → [終了PLU番号] を省略）
部門別PLU	点検	[1]～[10] (部門キー)
全時間帯別	点検	[#/時刻]
	精算	[•] → [#/時刻]
取引別	点検	[信用1]
全項目	点検	[現金/預り/両替]
	精算	[•] → [現金/預り/両替]

点検・精算表の印字見本

(1) 全責任者の点検・精算表

```
          X  1
          #  1
       163個
  *167786   計
  ～～～～～～～～
       221個
  *225818   計
```

- X 1 の下の「# 1」：責任者(コード1)
- 163個／*167786 計：各責任者の取引件数、取引合計
- 221個／*225818 計：全責任者の合計

<精算時>

```
          Z  1
```

(2) 全部門グループの点検表

```
          X  1
  - - - -1#
       23個
   *24620
    14•35  %
  - - - -2#
       15個
    *7300
     4•25  %
  ～～～～～～～～
  - - - -9#
       24個
   *25700
    14•98  %

      126個
  *171609
```

- - - - -1#：グループ番号
- 23個：グループ売上点数
- *24620：グループ売上金額
- 14•35 %：グループ売上金額構成比率（グループ売上金額÷全部門売上合計金額）×100
- 126個／*171609：全部門合計

◆注　この印字見本は、グループ構成比率を印字するように設定されている場合のものです。

(3) 全PLU/区間PLUの点検・精算表

(全PLUを指定したとき)

```
              X  1

   PL001-999        ── 点検/精算の範囲指定
   PL001            ── PLU番号
           2 個     ── 売上点数
       *2000        ── 売上金額
   PL002
           5 個
       *1500
   PL003
           6 個
       *1900
   PL004
           4 個
       *6000
   PL005
          17 個
      *13450
   ~~~~~~~~~~~~~~
   PL018
           5 個
       *3000
   PL019
           9 個
       *8400
   PL020
           7 個
       *7700

          73 個  ┐ 範囲指定PLU
      *60030     ┘ 売上合計
   PL     73 個  ┐ 全PLU
      *60030     ┘ 売上合計
```

<精算時>

```
              Z  1
```

(4) 部門別PLUの点検表

(部門5を指定したとき)

```
                   X  1

部門番号 ──  05
PLU番号 ──  PL006
                  7 個
              *5880
            PL007
                  9 個
              *6400

部門別PLU ┌       16 個
売上合計  └   *12280
全PLU     ┌ PL    73 個
売上合計  └   *60030
```

(5) 全時間帯別点検・精算表

<精算時>

```
      X  1

    7-00       ── 時間帯
      13個     ── 取引件数
  *5356        ── 時間帯別売上
     412@      ── 平均売上単価
    8-00
      28個
 *11347
     405@
    9-00
       7個
  *4808
     687@
   10-00
       8個
  *7362
     920@
   11-00
      14個
 *12941
     924@
   12-00
      32個
 *41352
    1292@
   13-00
      21個
 *16402
     781@

   20-00
      20個
 *15823
     791@
   21-00
       6個
  *3200
     533@
```

```
      Z  1
```

◆注　この印字見本は、平均売上単価を印字するように設定している場合のものです。

(6) 取引別点検表

印字	項目	備考
X 1		

622個 *261349 計 100•00 %	①プラス部門合計	

2個 -1100- 計	②マイナス部門合計	
2個 -23 ⊖	③小計値引合計	
1個 -200 %1 3個 -422 %2	④小計割引/割増の合計	
*259604 小計	⑤売上小計	①+②+③+④
*214320外小計	⑥外税1課税売上合計	消費税1についての項目
*10712外税	⑦外税額1合計	消費税1についての項目
*28437内小計	⑧内税1課税売上合計	消費税1についての項目
*1353内税	⑨内税額1合計	消費税1についての項目
*8212外小2	⑩外税2課税売上合計	消費税2についての項目
*573外税2	⑪外税額2合計	消費税2についての項目
*4095内小2	⑫内税2課税売上合計	消費税2についての項目
*268内税2	⑬内税額2合計	消費税2についての項目
*12906 税計	⑭消費税額合計	⑦+⑨+⑪+⑬
*4540非税計	⑮消費税非課税売上合計	
-11	⑯端数調整額合計	
*257972 純計	⑰税抜き純売上合計	⑤−⑨−⑬+⑯
*270878 計	⑱総売上合計	⑰+⑭

◆注　この印字見本は、部門構成比率を印字するように設定している場合のものです。

日計売上の点検と精算

2回	-60 ⊖	⑲部門、PLUからの値引の合計
3回	-510 %1	⑳部門、PLUからの割引/割増の合計
2回	-255 %2	
2回	*2000 戻	㉑戻品登録の回数と合計金額
11回	*18420 訂	㉒直前訂正、指定訂正の回数と合計金額
1回	*997 ⊡	㉓取引終了後の取消しの回数と合計金額
1回	*8200 小計	㉔全項目の取消しの回数と合計金額
1回	*36500 入	㉕入金の回数と合計金額
2回	*21600 払	㉖支払いの回数と合計金額
54回	*206158 現	㉗現金売りの回数と合計金額
4回	*25700 信1	㉘信用売り1の回数と合計金額
3回	*32995 信2	㉙信用売り2の回数と合計金額
6回	*6085 掛	㉚掛売りの回数と合計金額
領収 1	3回 *37445	㉛領収証の発行回数と合計金額
領収 2	1回 *35000	㉜印紙付領収証発行の回数と合計金額
4回		㉝認証印字の回数
6替	*10500替	㉞両替の回数と合計金額
2ⓐ		㉟1万円札の枚数
62回		㊱取引件数
	*220998 現計	㊲現金在高
	*60 信釣	㊳信用売りによるつり銭の合計額

(7) 全項目の点検・精算表

```
        X  1
01                    ← 部門番号
     16個             ← 売上点数
 *13979               ← 売上金額
   7•97  %            ← 部門売上金額構成比率
                         (部門売上金額÷
                         プラス部門売上合計金額)
                         ×100
02
     15個
  *7300
   4•16  %

09
     24個
 *25700
  14•65  %
- - - - -
    125個             ┐
*175409  計           ├ プラス部門合計
 100•00  %            ┘

10
      1個
  -3800
- - - - -
      1個             ┐ マイナス
  -3800-  計          ┘ 部門合計

      1個             ┐
     -3  ⊖            │
      2個             │
   -520  %1           │
      1個             │
   -195  %2           │
                      ├ 取引別売上
      2個             │
      4替             │
 *20000替             │
      2@              │
                      │
     60個             │
*179001  現計         │
   *200  信鈎         ┘
```

〈精算時〉

```
0001Z  1
```

精算回数（0001）

◆注１　この印字見本は、部門構成比率を印字するよう設定している場合のものです。

◆注２　点検または精算時に累計を印字することができます。累計の印字を希望されるときは、お買い上げいただいた販売店にご相談ください。

（累計の印字内容）

```
    *00000  累1
00861431
    *00000  累2
00861811
    -00000  累3
00000380
```

累計１：累計２－累計３
累計２：プラス登録の累計
累計３：マイナス登録の累計

期間集計の点検と精算

日計売上とは別に任意の期間(1週間、1カ月など)の売上高を集計(期間集計)した点検・精算表が発行できます。
本機では、“期間集計1”と“期間集計2”の2種類の期間集計を取ることができます。たとえば、“期間集計1”を週間集計用に、“期間集計2”を月間集計用にするような使い分けが任意の期間でおこなえます。

◆注　期間集計をおこなうには、毎日、日計売上を精算する必要があります。

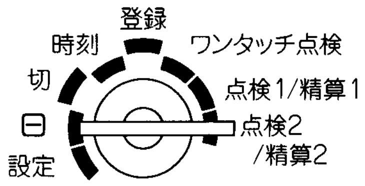
●点検
期間集計された売上高を確認するときにおこないます。売上の点検をおこなっても記憶内容は消えません。
売上の点検は必要に応じて何回でもおこなえます。

●精算
期間集計された売上高をクリアする(記憶内容をゼロにする)ときにおこないます。

・期間集計の点検および精算は次のページの表に示す項目についておこなうことができます。

■操作手順

機能切りかえスイッチの位置



●機能切りかえスイッチ
“点検2/精算2”の位置に合わせます。

責任者を変更するときは

“点検2/精算2”に切りかえる前に、責任者の登録をおこなってください。責任者の登録のしかたについてくわしくは「責任者キー(責任者の登録)」を参照してください。

機能切りかえスイッチの位置：時刻·登録·⊟

責任者登録：［責任者コード（1〜4）］ ——→ ［責任者］

●点検/精算表発行時の注意点

点検/精算表の印字を中止することはできません。精算表を印字すると、各合計器がクリアされますので、ご注意ください。

〈期間集計 1〉

項目	点検/精算	キ ー 操 作
全部門グループ	点検	[掛売]
全PLU/区間PLU	点検	→ [開始PLU番号] → [⊗] → [終了PLU番号] → [PLU] 開始PLU番号のみ点検：[⊗] → [PLU] 全PLUの点検：[PLU]
	精算	→ [開始PLU番号] → [⊗] → [終了PLU番号] → [•] → [PLU] 開始PLU番号のみ精算：[⊗] → [•] → [PLU] 全PLUの精算：[•] → [PLU]
部門別PLU	点検	[1]～[10]（部門キー）
日計別売上	点検	[小計]
	精算	[•] → [小計]
取引別	点検	[信用1]
全項目	点検	[現金/預り/両替]
	精算	[•] → [現金/預り/両替]

〈期間集計 2〉

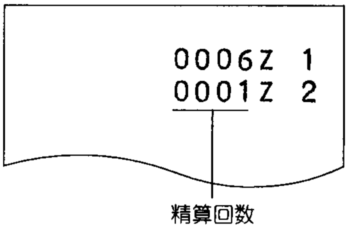
項目	点検/精算	キ ー 操 作
全部門グループ	点検	[⊗] → [掛売]
取引別	点検	[⊗] → [信用1]
全項目	点検	[⊗] → [現金/預り/両替]
	精算	[•] → [⊗] → [現金/預り/両替]

点検・精算表の印字見本

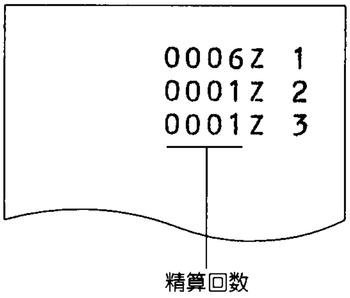
期間集計１および期間集計２の点検・精算で印字される明細の項目とその順序は、日計の点検・精算表に準じます。ただし、下記のように各点検・精算表のタイトル部分(精算回数器)は日計の場合とは異なります。
以下に掲載する印字見本以外については、「日計売上の点検と精算」の印字見本を参照してください。

(1) 全項目の期間集計点検・精算表のタイトル印字見本

(期間集計１の精算表)



(期間集計２の精算表)

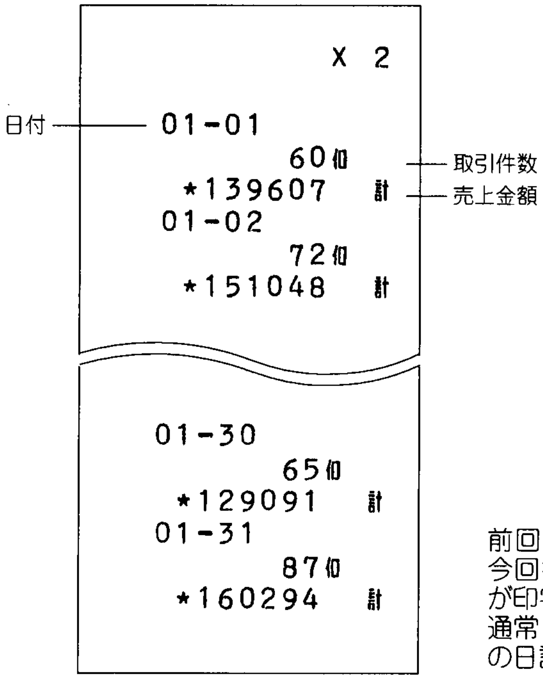


◆注１　精算回数器の内容は、それぞれ次のようになっています。
Z　1＝日計の全項目精算回数、Z　2＝期間集計１の全項目精算回数
Z　3＝期間集計２の全項目精算回数

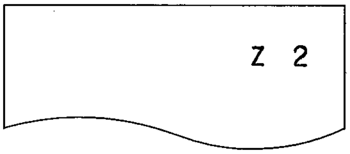
◆注２　点検表の場合は、“Z　2”・“Z　3”の印字がそれぞれ“X　2”・“X　3”になります。

◆注３　点検・精算表に印字される明細の項目とその順序については、「日計売上の点検と精算」の印字見本を参照してください。

(2) 日計別売上点検・精算表



＜精算時＞



前回、日計別売上の精算をおこなった日の翌日から、今回操作する日までの１日ごとの取引件数と売上金額が印字されます。
通常、１ヵ月に１回おこなってください。(40日分までの日計を集計できます。)

停電など異常が発生したときは

停電のときは

●待機中および操作中の停電
営業時間中、停電になったり、コンセントが抜けたりしても、レジスタの記憶内容およびそれまでの登録状態は保持されます。
復帰後、停電前の状態または動作をそのまま継続しますので、続けて操作してください。

●印字中の停電
レシート印字中停電し、不完全な印字や誤印字が発生しても、復帰すれば“印字エラー記号”とともに正しい内容が再印字されます。

```
 01    *120
 02      00     ── 停電前に印字した内容
********        ── 印字エラー記号
 02    *500     ── 復帰時の印字
       *620 小計
        *31 外税
       *651 現
```

プリンタが停止（モーターロック）したときは

ロール紙の紙づまりなどでプリンタのモーターが回転しない状態(モーターロック)になると、印字が止まり、アラーム音が鳴ります。この場合は次の操作をしてください。

■操作手順
1）電源プラグを抜き、紙づまりしているロール紙を取り除きます。
2）電源プラグを差し込みます。
3）ロール紙をプリンタにセットし、[CL]キーを押します。
停電時と同じ“印字エラー記号”が印字され、印字を再開します。
以降は通常の操作をおこなってください。

プログラムリセット

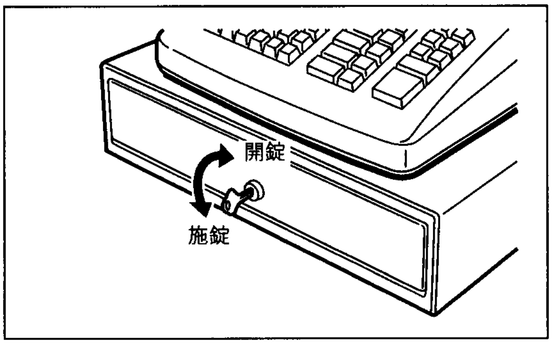
設定データや売上データなど、記憶内容を保持したままでレジスタを初期状態に戻す場合はこのプログラムリセットをおこないます。

■操作手順

1）電源プラグを抜きます。
2）機能切りかえスイッチを“設定”の位置に合わせておきます。
3）［レシート］キーと［記録紙］キーを同時に押したままで電源プラグを差し込みます。
プログラムリセットをおこなうと、“★★★★★★　　　　　2”が印字されます。

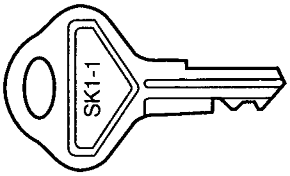
引出しの取扱い

引出しの施錠と開錠のしかた

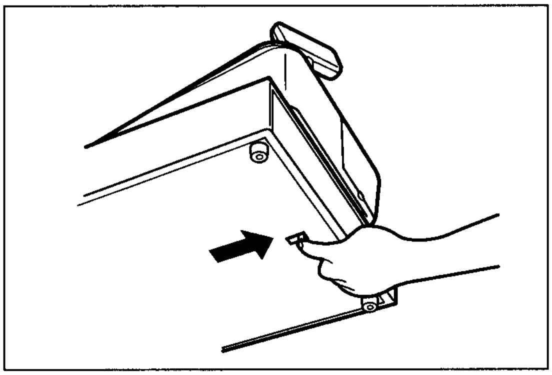


長時間ご使用にならないときは、引出し錠を施錠するように心がけてください。
付属の引出し鍵を本体前部の鍵穴に挿入し、時計と反対方向に90度回すと施錠されます。
開錠するときは時計方向に90度回してください。

●引出し鍵



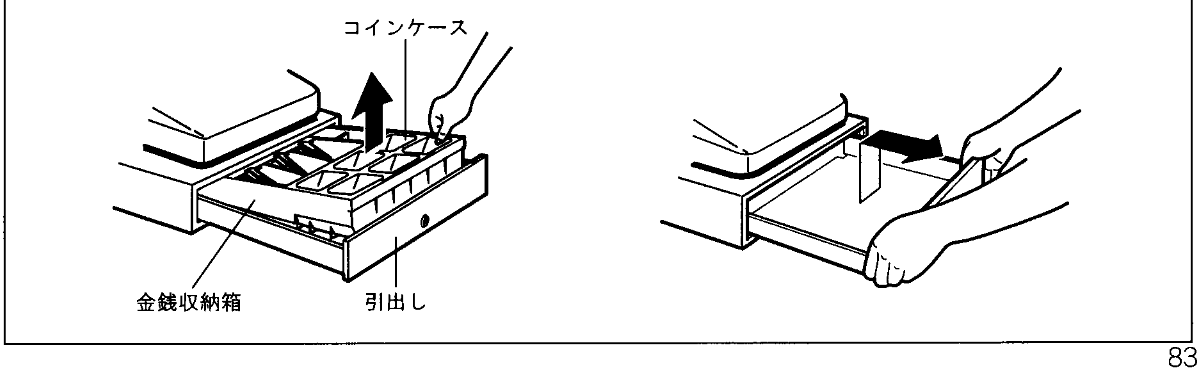
引出しの開けかた



通常の登録時には、引出しは自動的に開きますが、停電時や万一故障したときなどは、本体底面の穴の中にあるレバーを矢印方向に引いてください。
ただし、引出し錠を施錠しているときは開きません。

金銭収納箱と引出しの外しかた

引出しと金銭収納箱は、分離型になっています。
金銭収納箱は、引出しをいっぱいに引き出した状態で、取り外してください。
引出しを取り外すときは、金銭収納箱を外した状態で上に持ち上げながら引き抜いてください。
※引出しは、硬貨6、紙幣3金種の収納箱(フリースペース有り)を装備しています。また、コインケースは分離できます。
紙幣仕切板は、1万円札を下に入れるなどして、上下で金種を分けてご使用ください。紙幣4金種まで扱えるようになります。



メンテナンス

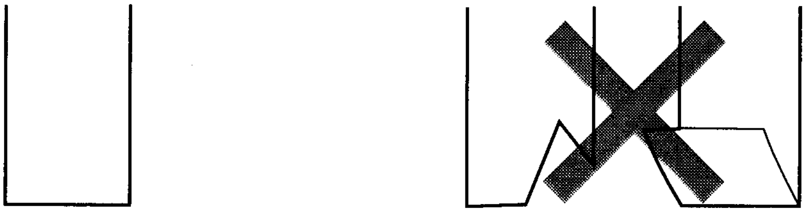
ロール紙の入れかた・取り出しかた

ロール紙のセットと先端の処理に注意して、ロール紙をプリンタに挿入してください。

●ロール紙のセット方向

良い例　　悪い例

●ロール紙の先端処理



良い例　　悪い例

ロール紙は必ず当社推奨のものをご使用ください。
推奨以外のロール紙をご使用になりますと、紙づまりを起こすなど、故障の原因となります。

●推奨ロール紙

紙質：上質紙

紙幅：44.5±0.5mm

外径最大：80mm

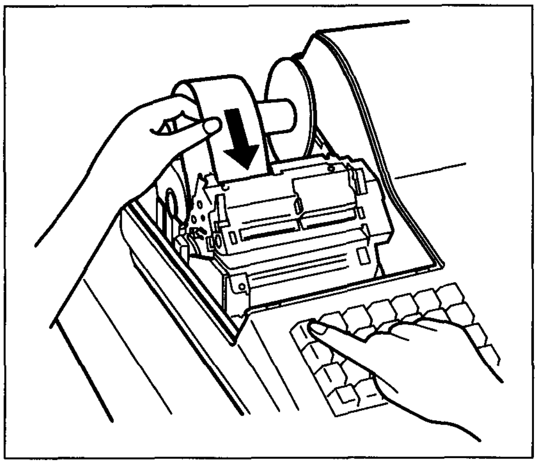
紙厚：0.06～0.09mm

坪量：52.3～64.0 g/m²(44～55kg/1000枚/788×1091mm)

本機をご使用になるときには、必ずロール紙をセットしてお使いください。
セットせずにご使用になりますと、プリンタ故障の原因となります。

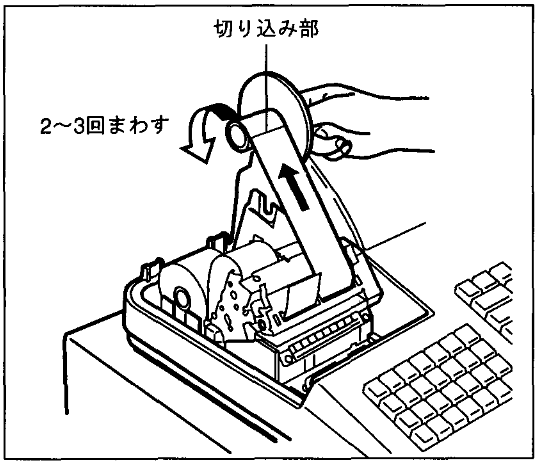
①入れかた

●レシート側



1) プリンタカバーを取り外します。
2) セット方向に注意して、ロール紙をロール紙収納箱の中に落とし込みます。
3) ロール紙の先端をまっすぐ平らに切り、プリンタのロール紙挿入口へ、まっすぐ奥まで差し込みます。
4) [レシート↑] キーを押して、必要な長さを送り出します。

●記録紙側

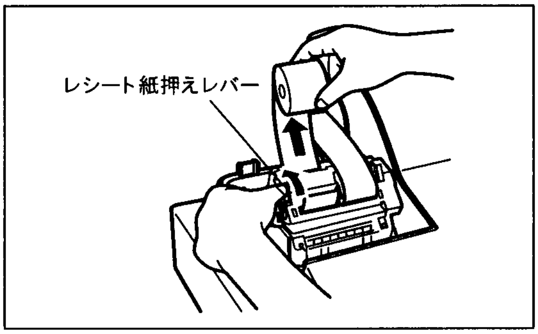


1) レシート側と同じ方法でロール紙をロール紙挿入口へ差し込み、[記録紙↑] キーを押して、必要な長さを送り出します。
2) 送り出されたロール紙の先端を巻取り軸の切り込み部に差し込み、2～3回巻き付けてから巻取軸を軸受けに取り付けてください。

②取り出しかた

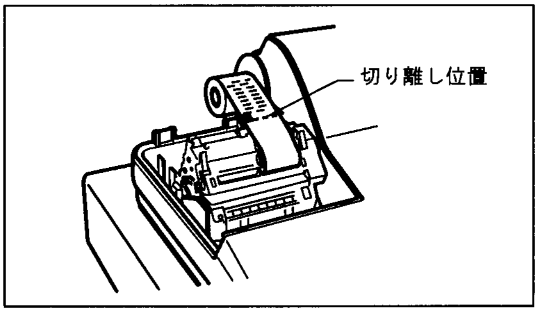
ロール紙の赤い部分が出てきたときは、ロール紙が残り少なくなっています。古いロール紙を送り出し、新しいロール紙に交換してください。

●レシート側

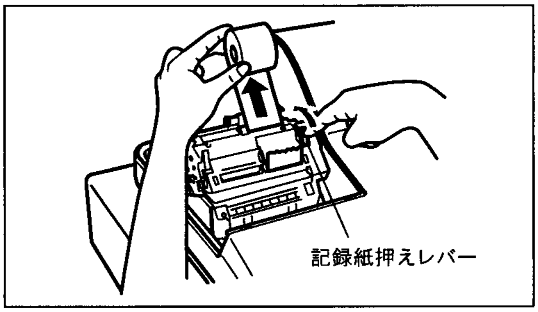


1) プリンタカバーを取り外します。
2) レシート紙押えレバーを押し下げて、ロール紙収納箱に残った古いロール紙を矢印の方向に引き抜いてください。

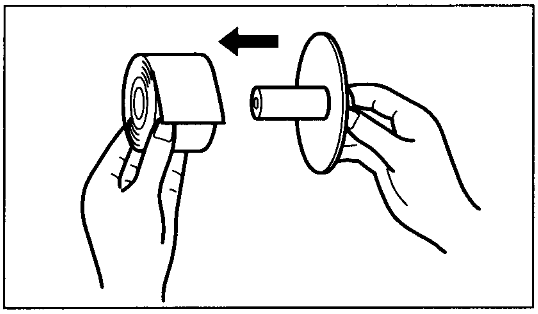
●記録紙側



1) [↑記録紙]キーを押して記録紙を数行送ってから、ロール紙を切り離し、巻取軸を軸受けから取り外します。



2) 記録紙押えレバーを押し下げて、ロール紙収納箱に残ったロール紙を引き抜いてください。

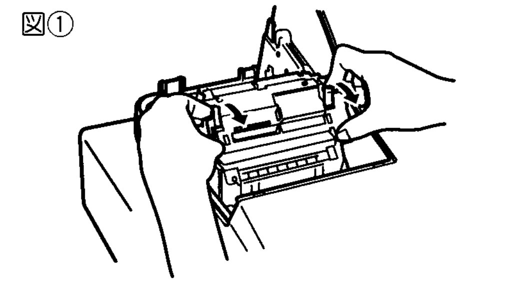


3) 巻取軸から記録紙を取り外します。

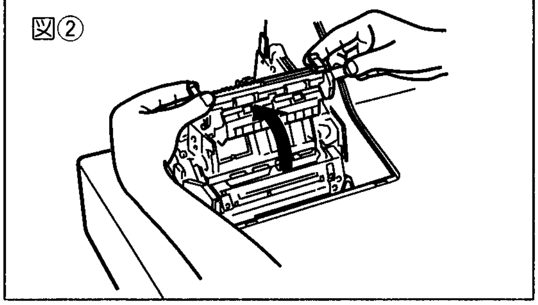
紙づまりのときは

ロール紙が紙づまりを起こし、[レシート][記録紙]キーを押しても送られなくなったときは、次の方法で取り除いてください。

図①



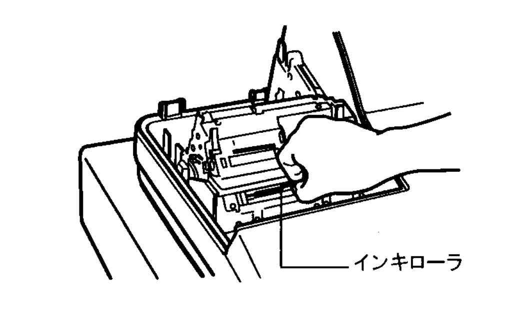
図②



1) プリンタカバーを取り外します。
2) レシート紙押えレバーと記録紙押えレバーを同時に手前(図①の矢印方向)に引きながら、プリンタ上部を持ち上げ(図②の矢印方向)ます。
3) 紙づまりを取り除きます。
4) プリンタ上部をそっと下ろし、カチッと音がするまで押して閉じます。
5) ロール紙を正しく入れ直してください。
6) プリンタカバーを取り付けます。

インキローラの交換のしかた

印字が不鮮明になってきたら、新しいインキローラに交換してください。

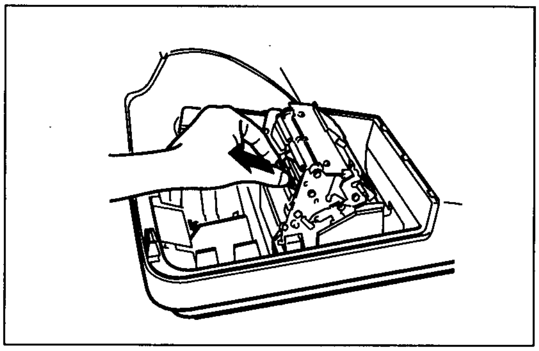


1) プリンタカバーを取り外し、レシート側・記録紙側ともにロール紙を取り出します。
2) インキローラを取り出します。
3) 新しいインキローラを取り付けます。
4) ロール紙を入れて、プリンタカバーを取り付けます。

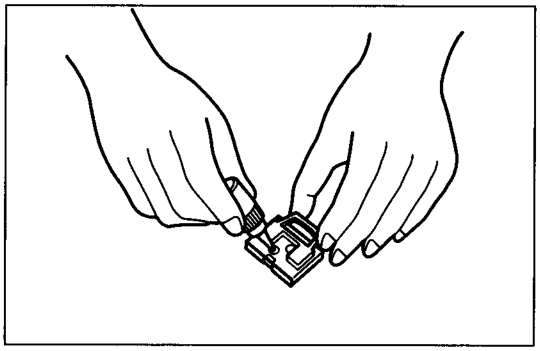
インキローラは当社指定のものをご使用ください。
指定外のインキローラを使用されますと、故障の原因となります。

スタンプインキの補充のしかた

スタンプの印刷が薄くなってきたら、次の方法でインキを補充してください。



1）プリンタカバーを取り外します。
2）店名スタンプを矢印の方向に取り外します。



3）スタンプ裏面にあるインキ補充用の穴に、インキを2～3滴補充します。
4）取り外したときと逆の方法で、スタンプを取り付けます。
5）プリンタカバーを取り付けます。

◆注1　インキの補充は営業終了時におこなうようにしてください。
　　　きれいに印字されるまで10～15時間かかります。
◆注2　インキを入れすぎないでください。
　　　入れすぎると印字がにじみ、かえってきたなくなります。
◆注3　補充インキはスタンプ専用のものです。
　　　インキローラには絶対補充しないでください。故障の原因となります。

＊補充インキがなくなりましたら必ず当社指定の補充インキをご使用ください。

消耗品について

1. ロール紙(5巻/1パック)
   紙幅 ：44.5±0.5mm
   紙質 ：上質紙
   紙厚 ：0.06～0.09mm
   坪量 ：52.3～64.0g/m²(45～55kg/1000枚/788mm×1091mm)
   品番 ：ROL-P-6A
2. インキローラ
   品番 ：TY-124A-B
3. 店名スタンプ用補充インキ
   品番 ：TY0301B (5cc黒色、染料系インキ)
   TY0302B (10cc黒色、染料系インキ)

＊上記の消耗品は、本機をお買い上げいただいた販売店でお買い求めください。

●その他
防滴キーボードカバーも用意しています。お買い上げの販売店にお申しつけください。(有償)

店名スタンプ作成ご依頼要領

本機には標準スタンプを装備していますが、貴店独自のスタンプを作成される場合は、巻末の「店名スタンプ作成依頼書」に指定の事項をご記入の上、お買い上げの販売店にお申し込みください。(有償)
納期は、ご依頼後約1ヶ月です。

仕様

形名	ER－A330S
外形寸法	(はば)355mm×(おくゆき)424mm×(たかさ)322mm
質量	11.2kg
電源	AC 100V±10%　50/60Hz
消費電力	待機時8W　最大29W
使用温度範囲	0℃～40℃
使用素子	LSI (CPU、ROM)その他
内蔵電池	蓄電池 メモリ保持期間約1カ月（内蔵電池完全充電時、常温にて）
表示部	オペレータ側：7セグメント表示　(10桁) 客側：　7セグメント表示　(7桁)
プリンタ	印字方式：ゴム活字式インナーハンマ方式 印字速度：約3行/秒 (最高時) 印字桁数：12桁(レシート紙、記録紙共) 付加機能：1. スタンプ機能 2. レシート発行/停止切りかえ機構 3. レシートおよび記録紙の独立紙送り機構 4. 1行認証印字機構
ロール紙	紙質：上質紙 紙幅：44.5mm±0.5mm 外径：最大80mm 紙厚：0.06～0.09mm 秤量：52.3～64.0g/m²
インキローラ	材質：ポーラスラバー インキ寿命：約30万行
時計誤差	月差±60秒 (25℃において)
引出し(金種)	9金種 (※ 10金種)：紙幣用3金種 (※4金種)、硬貨用6金種　※紙幣仕切板使用時 フリースペース有り

<ご注意>

◆本書に記載されている内容については、改良のため予告なく変更する場合があります。

◆本書の内容については、作成にあたり万全を期しておりますが、万一ご使用中にご不審な点、お気付きのことがありましたら、お手数ですが、もよりのシャープお客様ご相談窓口までご連絡ください。

◆本製品を使用した結果については、上記にかかわらず責任を負いかねますので、ご了承ください。

アフターサービスについて

(1) 製品の保証について

1.このレジスタには保証書がついています。
保証書は販売店にて所定事項を記入してお渡しいたしますので、内容をよくお読みのうえ大切に保存してください。
2.保証期間はお買い上げの日から1年間です。
保証期間中でも有料になることがありますので、保証書をよくお読みください。
3.保証期間後の修理は…
修理によって機能が維持できる場合は、ご要望により有料修理いたします。

(2) 修理を依頼されるときは

1.「故障かな？と思ったら」をよくお読みのうえ、もう一度お調べください。
2.それでも異常があるときは、使用をやめて電源プラグを抜き、お買い上げの販売店またはもよりのシャープお客様ご相談窓口に次のことをご連絡のうえ、修理をお申しつけください。お申し出により出張修理いたします。

品名：電子レジスタ
形名：ER－A330S
故障の状態：（できるだけくわしく）

◆注　ご自分での修理はしないでください。たいへん危険です。

3.アフターサービスについてわからないことは…
お買い上げの販売店またはもよりのシャープお客様ご相談窓口にお問い合わせください。

(3) 補修用性能部品について

当社は、この電子レジスタの補修用性能部品を製造打ち切り後、最低7年保有しています。
補修用性能部品とは、その製品の機能を維持するために必要な部品です。

故障かな？と思ったら

次のような場合は、故障でないことがありますので、修理やアフターサービスをお申しつけになる前にあらかじめお調べください。

こんなとき	ここをお確かめください	参照ページ
1）機能切りかえスイッチを“切”以外のどの位置に回しても、表示部が点灯しない。	• 電源コンセントまで電気がきていますか？ • 電源コードの差し込みプラグがコンセントから抜けたりゆるんだりしていませんか？	10ページ
2）表示部が点灯しても登録できない。	• 機能切りかえスイッチは“登録”の位置に正しく合わせられていますか？	15、16、44ページ
3）レシートが発行されない。	• レシートの発行が“停止状態”になっていませんか？ • 紙づまりを起こしていませんか？ • ロール紙の残量は十分ですか？	45、81、84、87ページ
4）記録紙が巻き取らない。	• 巻取軸は正しく軸受けに設置されていますか？ • 紙づまりを起こしていませんか？ • 巻取軸にロール紙が正しく取り付けられていますか？	15、81、85、87ページ
5）印字が正常でない。	• インキローラは正しく取り付けられていますか？ • インキローラの寿命ではないですか？ • ロール紙は正しくセットされていますか？	15、84、87ページ

MEMO

MEMO

シャープ電子レジスタ **店名スタンプ作成依頼書** 年 月 日

1. 形 名 ER-A330S（セット番号 ＿＿＿＿＿＿）

2. スタンプ作成顧客名

ご 芳 名 ＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿

ご 住 所 ＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿

電話番号 ＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿

3. 作成スタンプ個数 ＿＿＿＿＿＿ 個

4. スタンプ原稿

（実寸は縦20mm、横30mmです。）

[お願い]

●黒のボールペンで大きくご記入ください。

●指定書体・マークはハッキリした正確な見本を添えてください。

5. 書体（○で囲んでください）

丸ゴシック・角ゴシック

楷書・明朝

FAX 送信方向

FAX 送信方向

通信欄 ・・・・・・・・・・指定マーク、指定書体は、この枠内に添付してください。

㊟ この欄に添付なき場合は写植（角ゴシック体）にて作製いたします。

取扱店名 ＿＿＿＿＿＿ **担当者名** ＿＿＿＿＿＿

住所 ＿＿＿＿＿＿

電話番号 ＿＿＿＿＿＿

販社名 ＿＿＿＿＿＿ 統轄・支店（営）＿＿＿＿＿＿

受 付 日 年 月 日

依 頼 日 年 月 日 担当 ＿＿＿＿＿＿

発注番号

きりとりせん

きりとりせん

---------------これより上の依頼書を切り取って送付してください。---------------

右の部分を切り取ってレジスタの側面に貼っておくと便利です。

きりとりせん

形名 **ER-A330S** 消耗品のご用命は 店名 TEL

消耗品名	品 番	備 考
ロール紙	ROL-P-6A	(5巻1パック) 紙幅:44.5mm±0.5mm 外径:最大80mm
インキローラ	TY-124A-B	
店名スタンプ用補充インキ	TY-0301B	容量 5cc
	TY-0302B	容量 10cc

使い方のご相談など

【レジスタ相談窓口】

0120 - 212 - 003
携帯電話・PHSからもご利用いただけます。

受付時間 ● 月曜～土曜:**9:00～18:00**
（祝日および年末年始を除く）

■ IP電話などからフリーダイヤルサービスをご利用いただけない場合は…

電話:06 - 7634 - 4095	FAX:06 - 6794 - 9675

修理のご相談など

【カスタマーセンター】（沖縄地区を除く）

0570 - 00 - 5008
全国どこからでも一律料金でご利用いただけます。
携帯電話からもご利用いただけます。

受付時間 ● 月曜～土曜:**9:00～17:40**
（祝日および年末年始を除く）

■〈PHS・IP電話をご利用〉または〈沖縄地区の方〉は…

東日本地区	PHS／IP電話:03 - 3810 - 8604
西日本地区	PHS／IP電話:06 - 6794 - 9676
沖縄地区	「那覇サービスセンター」098 - 861 - 0866(月～金 9:00～17:30)

●電話番号・受付時間などについては、変更になることがあります。(2011.3)

「よくあるご質問」などはホームページをご活用ください。 ▶▶▶▶ シャープサポートページ
http://www.sharp.co.jp/support/ecr/

シャープ株式会社

本社 〒545-8522 大阪市阿倍野区長池町22番22号
ビジネスソリューション事業推進本部 〒639-1186 奈良県大和郡山市美濃庄町492番地

お客様へ…お買い上げ年月日、お買い上げ店名を記入されますと、修理などの依頼のときに便利です。

お買い上げ年月日	年　月　日
お買い上げ店名	電話番号